

全船協

会報 153号 2023年8月 夏季号



「MV ONE INFINITY」 正栄汽船株式会社提供



一般社団法人 **全日本船舶職員協会**

JAPAN MARITIME OFFICERS' ASSOCIATION

無料船員職業紹介所(国土交通省許可第8号)

URL <https://www.zensenkyo.com>

山友汽船株式会社

代表取締役社長 望月正信

〒650-0015 神戸市中央区多聞通2丁目1番1号
TEL (078) 371-5505 FAX (078) 371-5520
Email: info@sanyukisen.co.jp

B&S ENTERPRISE

株式会社ビーアンドエス・エンタープライズ
TEL (078) 361-6971 FAX (078) 361-6972
Email: info@bands-k.com



北星海運株式会社

代表取締役社長 加藤由起夫

〒104-0031 東京都中央区京橋一丁目1番5号
セントラルビル6階
電話 (03) 3275-5520(代) FAX (03) 3275-5575

一般社団法人 日本船長協会

会長 中村紳也

〒102-0083 東京都千代田区麹町4丁目5番地
(海事センタービル5階)

電話 (03) 3265-6641
FAX (03) 3265-8710
<http://www.captain.or.jp>

一般社団法人 海洋会

会長 関根博

〒102-0083 東京都千代田区麹町4丁目5番地
(海事センタービル6階)

電話 (03) 3262-8632
FAX (03) 3262-6909



一般社団法人

日本船舶機関士協会

会長 四方哲郎

〒102-0083 東京都千代田区麹町4丁目5番地
(海事センタービル5階)

電話 (03) 3264-2518
E-mail: me-honbu@marine-engineer.or.jp
URL <http://www.marine-engineer.or.jp>

人と海に未来を

公益社団法人 日本海難防止協会

会長 内藤忠頭

〒151-0062 東京都渋谷区元代々木町33-8
元代々木サンサンビル3F

電話 (03) 5761-6050 / E-mail: 2231jams@nikkaibo.or.jp
<https://www.nikkaibo.or.jp>



THE JAPAN MARITIME DAILY

試読・購読のお申し込みは
電話 **03-3436-3223** まで

<https://www.jmd.co.jp/>

海上の友

船員と船員家庭のタブロイド版新聞 毎月1日発行
年間購読料 本体価格(5,916円) + 税 送料別

お申し込み
お問い合わせ (公財)日本海事広報協会

〒104-0043 東京都中央区湊2-12-6
電話 (03) 3552-5034 FAX (03) 3553-6580

- ・海技教育支援 ・奨学金
- ・帆船「海王丸」体験航海・海洋教室 等

公益財団法人 海技教育財団

会長 池田潤一郎

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-4

電話 (03) 3288-0991 <https://macf.jp>

ラッシング・チョッキング資材の総合サービス

株式会社ウシオ

100th
ANNIVERSARY
since 1920

代表取締役社長 牛尾 雅英

〒652-0813 兵庫県神戸市兵庫区兵庫町2丁目3番27号

電話 (078) 652-2065 / FAX (078) 652-2070

<http://ushio-kk.co.jp>

東京/横浜/常陸那珂/名古屋/大阪/和歌山/加古川/門司/福岡/香港

目次

表紙 … MV ONE INFINITY 正栄汽船株式会社

巻頭言 カーボンゼロ次世代の燃料.....専務理事 加藤 信一 … 2

2023年度通常総会議事録.....事務局 … 3

C号航海記 (第2回).....内海水先区水先人会水先人 会員 栗阪 肇 …20

北から南から

富山高等専門学校25

鳥羽商船高等専門学校30

広島商船高等専門学校35

大島商船高等専門学校38

弓削商船高等専門学校42

海技教育機構47

海事振興連盟 呉タウンミーティング 開催報告

および海洋教育推進プロジェクト 呉市開催報告.....参議院議員 赤池誠章 …50

企画展「関東大震災100年 船と港から見た関東大震災」.....横浜みなと博物館 …52

第49回 知られざる民間船舶の悲劇 戦時徴用船遭難の記録画展.....事務局 …54

本部・支部だより事務局 …55

賛助会員名簿事務局 …56

会費納入者名簿&新規入会者.....事務局 …57

時事寸評・表紙写真解説・編集後記.....事務局 …59



カーボンゼロ次世代の燃料

専務理事 加藤 信一



気候変動対策に対する動きを受け、岸田内閣総理大臣の所信表明演説に『2050年カーボンニュートラル及び2030年度の46%排出削減の実

現に向け、再エネ最大限導入のための規制の見直し、及び、クリーンエネルギー分野への大胆な投資を進めます。』こうした状況下我が国海運業界は先行して2021年10月国土交通省と日本船主協会より、国際海運2050年カーボンニュートラル(=GHG排出ネットゼロ)を目指すことを発表。

海運輸送は効率に優れているが、世界中の荷物輸送に5万隻の商船が従事しCO₂の排出量は世界全体の2.1%に達している。(内航海運の排出量は含まず)

カーボンニュートラル(=GHG排出ネットゼロ)には、現在の船舶が主に使用している重油燃料からゼロエミッション燃料であるアンモニア・水素。カーボンニュートラル燃料のカーボンリサイクルメタン・合成メタノール・バイオディーゼルへの燃料転換が不可欠。いずれの燃料も今後の開発・実用化に向けた取り組みが進められており以下の問題点が指摘されている。

○ アンモニア燃料

エンジン開発に当たっては、未燃アンモニアの処理やパイロット燃料低減技術の開発が課題となっている。また、アンモニアの燃焼に当たって

は、CO₂の約300倍の温室効果を持つN₂Oの排出が従来の重油燃焼と比べ多くなるため、詳細な実態把握(発生メカニズムの解明及び発生量の把握)や排出削減技術の開発(触媒による後処理等)の検討も重要である。

○ 水素燃料

水素燃料船の導入に向けて、エンジンの開発に当たっては、オットーサイクルの場合は異常燃焼(ノッキング・失火・過早着火)の制御、ディーゼルサイクルの場合は高圧燃料供給装置の開発が課題となっている。

○ メタン(バイオ・合成)燃料

既に実用化されているLNGの技術を使用でき、LNG燃料船や燃料供給インフラもそのまま転用することができる。ただし、燃焼に当たって、CO₂の約30倍の温室効果を持つ未燃のCH₄が漏洩(メタンスリップ)する問題や、コンプレッサー等からの漏洩(メタンリーク)の問題が懸念されており、これらの把握及び対策が必要である。

○ ディーゼルオイル(バイオ・合成)燃料

既存の重油炊き船にそのまま使用することができるという利点があるが、NOX規制等の問題がある。

また、船員に対する課題としてはガス燃料船を担う船員の安定的な確保・育成、水素・アンモニア燃料船に乗り組む船員の能力要件の策定及び能力要件の策定及び国際基準化等の調査検討に関する専門委員会(一般財団法人海技振興センター)が設置され当会も構成員として協力しております。

今後とも皆様の知見を集約して2050年カーボンニュートラルの実現に協力してまいります。

2023年度通常総会議事録

1. 開催日時 2023年6月10日(土) 14時00分～15時00分
2. 開催場所 東京都千代田区一ツ橋二丁目6-2
一般財団法人 日本教育会館(一ツ橋ホール) 会議室703号
3. 出席者 総正会員数の議決権の数 1,313名
定足数 657名
出席正会員数 609名(本人出席12名、委任状出席597名)
議決権のある出席正会員総数 753名(書面表決146名を含む)
実出席理事 8名
実出席監事 2名
理事・監事以外の実出席者 2名

実出席者氏名

- ① 出席理事 広重康成、望月正信、酒迎和成、田島孝一、松見準、玉川宏、加藤信一、師富潤、
- ① 出席監事 徳嶋明宏、文谷嘉宏
- ② その他の正会員出席者
飯島寿、水野博之、

4. 議長の選出及び、議事録署名人の選任、定足数の報告

定刻14時司会者に任じられた加藤専務理事が開会を宣し、本年度もコロナウイルス感染防止のため、通知表は委任状若しくは書面表決にて送付願っており、事前了承を依頼した。続いて定款第17条に基づく議長の選出を諮ったところ、正会員水野博之氏より挙手があり、出席者の賛成多数により承認され、水野博之氏が議長に就任した。

水野博之氏が議長席に着き挨拶の後、議長が議事録署名人を選任したい旨を述べたところ立候補者がなく、議長より署名人候補として、徳嶋明宏氏、文谷嘉宏氏の2名が推薦され、選任された。

書記には飯島寿氏を任命した。その後、飯島書記から本日の通常総会は定款第18条の定足数657名を満たしている旨の報告がなされ、議長は本総会が成立した旨を宣した。

5. 物故者への黙祷

加藤専務理事より昨年度8名の物故者の報告があり、出席者全員で黙祷を捧げた。

6. 議事に先立ち、広重会長から、この一年間の活動を振り返り、5商船系高専の校内練習船代替建造の第1船にあたる新・大島丸の引渡式が3月に行われたことなどが報告され、今後も全船協として各方面への働きかけを行っていくとして会員各位の支援をお願いする旨の挨拶がなされた。また現在全船協が置かれている厳しい状況とそれを乗り越える策を本総会に付議しているため、ご審議を賜りたい旨挨拶があった。その後、議案審議に入った。

第1号議案 2022年度事業報告書(案)について

第2号議案 2022年度決算(案)について

議長は、標記の議題について、事務局に一括して説明することを求め、加藤専務理事から当期（2022年4月1日から2023年3月31日まで）における事業報告・決算について次の書類をもって説明・報告がなされた。

- ① 貸借対照表 ② 正味財産増減計算書 ③ 事業別正味財産増減(税込・累計)
- ④ 収支計算書 ⑤ 財産目録 ⑥ 財務諸表に対する注記

次いで徳嶋明宏監事から、当該期における監査報告書が読み上げられ、当該書類が適法に処理され、且つ適法に記載され、又理事の業務執行に関し不正行為または法令および定款に違反する事実がない旨報告がなされた。監査意見として「5 商船系高専の校内練習船の代替新造計画の支援を行い、第1船となる新・大島丸引き渡し行われ、第2船新・弓削丸の起工式の挙行、新・鳥羽丸も予算獲得と着実に実を結んでいる点など、今後も継続的に支援をお願いしたい。」と特記された。その後、議長が賛否を議場に諮り、満場一致で承認可決した。

7. 報告事項

加藤専務理事から4月22日開催された理事会の決定事項について、次の報告があった。

2023年度事業計画（案）及び2023年度予算（案）

議長はこれについて質疑及び意見等を求めたが、特に質疑及び意見等の無いことを確認した。

8. 松見理事より発言があり、協会の活動を振り返り今後とも協会の発展と積極的に業界に対する影響を維持する活動を行う事を願う。

以上をもって議案を終了し、望月副会長より「全船協としてこれからも船員教育支援についての問題には取り組んでいきたいので、会員の皆様のご理解とご協力をお願いします。」と閉会の挨拶が行われた後、議長は閉会を宣言し、15時00分散会した。

上記の議事の経過及びその結果を明確にするため、この議事録を作成し、定款第22条議事録の定めに従い、議長、出席正会員2名及び代表理事がこれに記名押印する。

2023年6月10日

議 長 水野博之 印

議事録署名人
(代表理事) 広重康成 印

議事録署名人
(正会員) 徳嶋明宏 印

議事録署名人
(正会員) 文谷嘉宏 印

第1号議案

2022年度事業報告

2022年度は、新型コロナウイルスの脅威に収束が見えてきたことで、世の中が活気づいた一方で、ロシアによるウクライナ侵攻の影響やインフレによる物価高騰等、市民生活が安定性に欠く一年だったが、コロナウイルス感染防止対策を講じて活動を行った。

1 公益目的支出計画事業

(1) 海事に関する調査研究（継続事業—1）

HTW（Human element, Training and Watch keeping：人的因子訓練当直）調査検討に関する専門委員会に参画

○ 国際海事機関（IMO）第106回海上安全委員会（MSC 106）の開催結果概要

2022年11月2日～11日にかけて、対面形式で国際海事機関（IMO）の第106回海上安全委員会（MSC 106）が開催されました。今次会合では、主に、自動運航船（MASS；Maritime Autonomous Surface Ships）の国際ルールの骨子案作成や、洋上風力・掘削施設等の洋上施設上で作業を行う人員を輸送する船舶の安全基準の採択等が行われた。

1. 自動運航船（MASS）の国際ルール策定に向けた検討

自動運航船の国際ルールについては、前回会合において、将来的な義務化を見据えつつ、まずは非義務的なものを作成することが合意されていた。

今次会合では、我が国の提案等に基づき、ルールの骨子案について、原則合意するとともに、会期間作業部会を設置し、今後、自動運航船にかかるセクションごとに起草作業を進めていくことに合意した。

2. 条約等の改正案の採択

(1) 燃料油の使用に係る安全対策

海上人命安全条約（SOLAS条約）では、火災等の防止の観点から引火点が60℃未満の燃料油の使用を原則禁止している。今般、更なる安全性向上のため、バンカー・デリバリー・ノート（BDN）と呼ばれる燃料供給者から発行される書面に引火点を記載すること、引火点が60℃未満の燃料が供給された際に条約締結国からIMOへの通報義務を課すること等の条約附属書改正案が採択された。改正案は2026年1月1日より発効する予定である。

(2) 洋上施設上で作業を行う人員を輸送する船舶の安全基準

洋上風力・掘削施設等の洋上施設上で作業を行う人員（IP：Industrial Personnel）を貨物船で13人以上輸送する場合の安全基準を策定するため、SOLAS条約附属書の改正及び同附属書に基づく作業人員を輸送する船舶の安全に関する国際規則（IPコード）案が採択された。これらは、2024年7月1日より発効する予定である。

○ 国際海運の温室効果ガス（GHG）排出削減目標及び削減対策を議論

～ 国際海事機関（IMO）第79回海洋環境保護委員会の開催結果 ～

2022年12月12日～16日にかけて、国際海事機関（IMO）第79回海洋環境保護委員会（MEPC

79) がハイブリッド形式で開催された。排出削減目標及び今後導入が必要な具体的な対策について議論が行われ、2023年7月に開催される次回会合（MEPC 80）で新たな削減目標を採択すべく、2023年3月及び6月に作業部会を開催し、引き続き議論される。

* 2023年7月に改訂予定の「GHG削減戦略」について、我が国は「2050年までに国際海運からのGHG排出を全体としてゼロ（2050年カーボンニュートラル）」という目標に加えて、今後のゼロエミッション船の加速度的な普及などを最大限推し進めることにより達成できる目標として2040年に50%削減(2008年比)を掲げることを今次会合に於いて提案した。

* 我が国を含む先進国及び島しょ国は、2050年までのGHGゼロ排出を目標とすべきと主張する一方、一部の発展途上国は、現在の目標を維持すべきと主張した。また、欧州及び米国等は燃料の製造段階での排出分も含めたライフサイクル全体でのGHG排出を対象に削減目標を設定すべきと提案し、また、米国・インド等からは、ゼロエミッション船または代替燃料の普及割合に関する新たな目標を設定すべきとの主張も述べられた。

* また、今次会合では、GHG削減のための具体的な対策についても審議され、ゼロエミッション船の普及促進のためには、first moversへの支援が重要であり、課金・還付型の経済的手法が有効であるとの我が国の主張を支持する意見が多く表明された。

* 審議の結果、2023年3月及び6月に第14回・第15回GHG中間作業部会を開催し、2023年7月の採択に向けて戦略改定について議論を進めるとともにGHG削減のための具体的な対策についても上記作業部会で引き続き検討していくことが合意された。

○ 船員の資格証明要件等を定めるSTCW条約の包括的見直しを開始

～ 国際海事機関（IMO）第9回人的因子訓練当直小委員会の結果概要 ～

2023年2月6日～10日にかけて、英国ロンドンのIMO本部にて、第9回人的因子訓練当直小委員会（HTW 9）が開催された。船員の教育訓練や資格証明並びに当直の基準を定めるSTCW条約の包括的見直しの議論が始められた。

* 船員の訓練及び資格証明並びに当直の基準に関する国際条約であるSTCW条約について、本条約の包括的な見直し作業が進められることになり、今次会合では、この包括的な見直し作業の目的及び原則に合意している。本条約の改正範囲及び今後の作業の進め方については、コレスポネンダンス・グループ（CG）を設置し、引き続き検討を進めることとなった。

* 漁船員に求められる最小限の国際基準として、教育訓練や資格証明の要件等を定めているSTCW-F条約について、2015年よりIMOにおいて、その包括的な見直し作業が進められて来た。今次会合では、この見直し作業の最終化に向けて、残されていた課題の検討を進め、条約の改正案及び関連指針案に合意した。改正案は、今年5月頃に開催予定の第107回海上安全委員会（MSC 107）での承認を経て、2024年春に開催予定のMSC 108において採択される見込みである。

(2) 船員・商船教育支援（継続事業—2）

ア 2022年10月22日開催の全船協第2回通常理事会に於いて、当協会の総意を再認識するため次の3項目を今後とも維持、継続および支援することを確認した。

- ① 商船系高専 5 校の商船学科での 3 級海技士の養成は現在の 5 年 6 ヶ月の学校教育制度を堅持して実行する。
- ② 商船系高専の練習船は新・大島丸に続き、新・弓削丸、新・鳥羽丸、新・若潮丸、および新・広島丸の連続建造を実現すべく、引き続き支援する。
- ③ 日本船主協会が実行している新 3 級および新々 3 級については反対するものとし、あくまでも日本人の海技士養成は、現存する商船系大学、商船系高専および海技教育機構所属学校によるものとする。

イ 5 商船系高専の校内練習船の代替新造計画の支援活動について

今年度においても新型コロナウイルス感染対策を行い、代替新造計画の実施について関係省庁および国会議員の先生方に陳情を行った。

第 1 船となった新・大島丸は、2022 年 3 月 1 日、三菱重工・下関造船所江浦工場において起工式が厳かに行われた。起工式には大島商船高専関係者、商船系高専校長および全船協からは酒迎会長（当時）が参列した。10 月 13 日には進水式（広重会長、酒迎理事出席）、2023 年 3 月 13 日には入魂式・引渡式が行われ、下関造船所を後にした。3 月 19 日大島商船高専において竣工記念式典（広重会長、酒迎理事出席）を挙行し、永岡桂子文部科学大臣、赤池誠章参議院議員、谷口功国立高等専門学校機構理事長ほか多くの関係者にご列席頂き、祝賀会も催された。

第 2 船となる新・弓削丸は、2022 年 12 月 12 日、三菱重工マリタイムシステムズ株式会社において起工式が挙行され、弓削商船高専関係者、柏木同窓会長、商船系高専校長及び全船協広重会長らが出席した。同船は 2023 年 10 月に同造船所で進水し、2024 年 3 月に引き渡しの予定である。

第 3 船は新・鳥羽丸となることが文部科学省の 2023 年度予算要求・要望額となっている。

ウ 第 6 回 高専・海事教育フォーラムについて

○ 2023 年 2 月 10 日 神戸国際会議場メインホールにて開催された。

全船協から加藤専務理事が「次世代の海洋人材の育成運営委員会」の運営委員の一人として出席し、人材育成・広報活動の 2 大タイトルに分類した報告の総括を行った。

人材育成では海技資格取得の重要性や海事関連産業との連携が、学生の学習意欲にも良い影響を与えているとの報告があった。

広報活動では各校、小中学生を対象に WEB を使った商船学科生による学校紹介を実施していてわかりやすいと好評だった。また校内練習船による体験航海は、小中学生はもちろん保護者にも貴重な広報活動イベントであると認識されている。

エ 5 商船系高専商船学科長懇談会の開催について

○ 2022 年 12 月 1 日に千代田区和泉橋区民館にて開催した。

大島商船高専の新・大島丸の建造の進捗状況について、2023 年 3 月竣工引渡しとの説明があった。全船協の支援活動について謝辞があった。

全船協より、9 月卒業生の入会についてお礼を申し上げ、さらに新入生の準会員入会についても支援の御願いをした。

商船学科への募集問題及びTOEIC点数向上についての意見交換があった。

全船協からは、2022年度の5校への寄附金は3月理事会の承認を得て、予定通り実行することを伝えた。(2023年3月27日、各校80万円×5校合計400万円寄附を実施した)

オ 5商船系高専校長懇談会の開催について

○ 2023年2月1日に千代田区万世橋区民館にて開催した。

議題に関しては商船学科長懇談会と略同じ内容であったが、寄附金の具体的な使用状況や今後の使用計画について、意見交換を行った。全船協からは、9月卒業生の入会についてお礼を申し上げ、さらに新入生の準会員入会についても支援の御願いをした。

カ 独立行政法人国立高等専門学校機構主催の次世代の海洋人材育成に関する協議会(Web会議)に委員として参画した。冒頭の理事長挨拶において、5校練習船の代替建造が実現したことについて、関係者への謝辞があった。5校の担当校から「国立高専における次世代の海洋人材の育成に関する取組」と題して、①海事・海洋分野の人材育成事業の実施 ②海事・海洋の魅力を伝える広報活動の実施についての説明があった。やはり、出口と連携したキャリア教育実践および商船学科入学に向けての活動が非常に重要であることを再確認した。

キ 次世代の海洋人材の育成に関する事業—海事キャリア教育セミナーについて、次世代の海洋人材の育成プロジェクトの一環として富山高等専門学校で開催された「海事キャリア教育セミナー」に講師を派遣した。

ク 商船系高専評議委員会(富山高専及び大島商船高専)に理事が参画した。

ケ 5商船系高専商船学科卒業式はコロナ禍のため、本協会会長祝辞および優秀学生の表彰状と記念品を郵送した。

コ 独立行政法人海技教育機構所属の練習船に「全船協文庫」として20万円を寄贈した。

サ 日本海洋少年団との連携について、海洋少年団連盟本部および国交省海事局の要請により、今年度も引き続き、全船協の会員を姫路海洋少年団の指導員として派遣した。

(3) 図書発行／講演会／会誌発行(継続事業—3)

ア 会報の発行

会報「全船協」第149号、第150号、第151号を正会員、準会員、賛助会員、5校商船学科生5年生全員と商船学科関係職員および海事関係団体等に発送した。

イ ホームページ

全船協の対外的な活動や来訪者を逐一掲載し、積極的な発信を行うとともに、求人情報を掲載

する等、無料船員職業紹介所の機能としても活用した。

(4) 無料船員職業紹介事業（継続事業—4）

	航海士		機関士		合計
求人	内航 11	外航	内航 11	外航	22
求職	内航	外航	内航	外航	
成立					

2 収益事業（施設管理事業）

全船協所有の千代田三信ビル 8 階を東芳紙業株式会社と建物賃貸借契約を締結し、また全船協所有の神戸三宮ベンチャービル 426 号を商船三井ドライバルク株式会社と建物賃貸借契約を締結し、収益事業として安定収入を得ている。

3 正会員、準会員及び賛助会員の獲得と会の活性化

(1) 正会員と準会員の入会

ア 2022 年 9 月卒の 5 校商船学科卒業生の入会は 119 名（前年比－21 名）であった。近年の入会減少対策として機会あるごとに 5 校商船学科長に積極的な入会促進を依頼したことおよび各校同窓会の協力の結果である。

イ 昨年に引き続き 4 月の新入生に有料の準会員の入会を促進し、5 校合計で 154 名の入会があった。2022 年度の 5 校商船学科長懇談会・校長懇談会において、各校の支援協力を受け新入生の勧誘を行った。

(2) 賛助会員の入会

ア 会長、副会長、専務理事および理事が、外航海運、内航海運、海運関連、港湾運送、船舶管理等々の企業及び全国の水先人会を訪問し積極的に勧誘した結果、現在 40 社となった。

なお、水先人会の加入は今年度も実現しなかった。

会員数は下表の通りである。

推 移	会 員	内 訳	正 会 員				賛 助 会 員		準 会 員
			本 年 度		前 年 度		個 人	団 体	本 年 度
	2022 年 3 月 31 日		1,214		1,089		0	40	308
入会者	入会	入会	119		140		0	1	154
		再入会		119		140			
退会者	会費未納資格喪失者 退会者								
			11	11	8	8		1	1
物故者			8	8	7	7			
	2023 年 3 月 31 日		1,314		1,214		0	40	461

(3) 協会の活性化

ア ホームページに本部の活動状況を逐一掲載して、積極的に発信することに努めた。

イ 2022年5月22日に第39回横浜港カッターレース大会が開催され、大会実行委員会副委員長として参加した。

ウ 委員会活動

① 企画財政委員会を開催し、予算の執行および事業計画について検討した。

② 広報HP委員会、会報発行の校正・編纂作業を行った。

4 管理部門の活動

(1) 執行役員会を開催し、協会の運営についての透明性および意思疎通を図った。

(2) 業務執行役員全員は無報酬とするとともに事務所経費の削減に努めた。

(3) 資産の運用に関しては運用先から適宜情報を入手し保全に努めた。

(4) 通常総会 2022年度通常総会は6月11日日本教育会館にて、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底し開催した。

(5) 理事会 2022年度は第1回から第3回まで対面形式での理事会を開催した。また、役員交代があったため、通常総会後の第1回臨時理事会を開催した。

(6) 監査 会計・業務監査を実施した。

5 海事団体への参画

(1) 役員・委員に就任している関連団体

ア (公財) 日本殉職船員顕彰会 理事・監事・催事委員・実行委員

イ (公社) 日本海難防止協会 理事

ウ (公財) 海技教育財団 理事・評議員・奨学生選考委員

エ (一財) 海技振興センターHTW 調査検討に関する専門委員会 委員

オ (公社) 日本海洋少年団連盟 役員選考委員会委員

カ (公財) 帆船日本丸記念財団 評議員

キ (一社) 横浜港振興協会・カッターレース実行委員会 副委員長

以上

貸借対照表

2023年 3月31日現在

一般社団法人 全日本船舶職員協会 法人【新基準】			
科 目	当年度	前年度	(単位：円) 増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	12,316,670	12,170,534	146,136
前払金	472,355	317,487	154,868
流動資産合計	12,789,025	12,488,021	301,004
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	129,885,040	100,165,040	29,720,000
基本財産郵便貯金	3,066,159	3,066,159	0
投資有価証券	100,000,000	120,692,800	△ 20,692,800
基本財産合計	232,951,199	223,923,999	9,027,200
(2) 特定資産			
修繕積立預金	1,428,697	1,428,697	0
特定資産合計	1,428,697	1,428,697	0
(3) その他固定資産			
収益事業準備基金	13,563,747	16,232,778	△ 2,669,031
建物	30,527,610	31,515,084	△ 987,474
建物附属設備	477,542	0	477,542
ソフトウェア	1,001,000	1,368,514	△ 367,514
什器備品	70,349	82,948	△ 12,599
土地	61,976,936	61,976,936	0
保証金	544,500	544,500	0
その他固定資産合計	108,161,684	111,720,760	△ 3,559,076
固定資産合計	342,541,580	337,073,456	5,468,124
資産合計	355,330,605	349,561,477	5,769,128
II 負債の部			
1. 流動負債			
前受金	721,291	741,879	△ 20,588
前受会費	600,000	250,000	350,000
未払法人税等	1,057,200	1,077,500	△ 20,300
流動負債合計	2,378,491	2,069,379	309,112
2. 固定負債			
受入保証金	6,594,000	6,594,000	0
固定負債合計	6,594,000	6,594,000	0
負債合計	8,972,491	8,663,379	309,112
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	233,870,000	233,870,000	0
(うち基本財産への充当額)	232,951,199	223,923,999	9,027,200
2. 一般正味財産			
(うち特定資産への充当額)	1,428,697	1,428,697	0
正味財産合計	346,358,114	340,898,098	5,460,016
負債及び正味財産合計	355,330,605	349,561,477	5,769,128
zensen05 ZENSEN05-PC		2023年 4月18日 12:59:40	

正味財産増減計算書

2022年 4月 1日から2023年 3月31日まで

一般社団法人 全日本船舶職員協会
法人【新基準】

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	5,774,978	8,760,386	△ 2,985,408
基本財産受取配当金	5,774,978	8,760,386	△ 2,985,408
特定資産運用益	31	31	0
特定資産受取利息	31	31	0
受取入会金	106,000	144,000	△ 38,000
受取入会金	106,000	144,000	△ 38,000
受取会費	8,714,200	9,823,000	△ 1,108,800
正会員受取会費	4,419,200	4,792,000	△ 372,800
賛助会員受取会費	2,150,000	2,300,000	△ 150,000
終身会員会費	595,000	1,171,000	△ 576,000
準会員会費	1,550,000	1,560,000	△ 10,000
事業収益	9,317,371	9,268,773	48,598
会報広告収入	452,000	544,000	△ 92,000
不動産事業収益	8,865,371	8,724,773	140,598
受取寄付金	0	30,000	△ 30,000
受取寄付金	0	30,000	△ 30,000
雑収益	9,257,002	266,305	8,990,697
受取利息	229,802	266,305	△ 36,503
雑収益	9,027,200	0	9,027,200
経常収益計	33,169,582	28,292,495	4,877,087
(2) 経常費用			
事業費	18,621,989	18,350,008	271,981
給料手当	0	1,080,000	△ 1,080,000
福利厚生費	0	102,616	△ 102,616
旅費交通費	2,082,859	1,208,456	874,403
通信運搬費	1,230,787	1,142,278	88,509
減価償却費	1,284,988	1,293,822	△ 8,834
建物減価償却	987,474	987,474	0
什器備品減価償却	10,076	10,076	0
ソフトウェア減価償却	264,980	296,272	△ 31,292
建物附属減価償却	22,458	0	22,458
印刷製本費	908,262	943,643	△ 35,381
機器賃借料	764,256	721,440	42,816
新聞図書費	246,471	246,471	0
光熱水料費	126,280	102,960	23,320
賃借料	1,497,348	1,494,256	3,092
保険料	8,428	13,392	△ 4,964
租税公課	855,800	837,500	18,300
共益費	1,883,760	1,883,760	0
支払負担金	0	230,000	△ 230,000
寄付金	4,750,220	4,450,000	300,220
支払広告費	182,600	207,100	△ 24,500
委託費	2,704,358	2,232,587	471,771
雑費	95,572	159,727	△ 64,155
管理費	4,441,907	3,503,758	938,149
給料手当	0	170,000	△ 170,000
福利厚生費	0	18,936	△ 18,936
会議費	51,278	49,660	1,618
旅費交通費	876,216	197,376	678,840
通信運搬費	343,214	424,846	△ 81,632
減価償却費	105,057	112,880	△ 7,823
什器備品減価償却	2,523	2,523	0
ソフトウェア減価償却	102,534	110,357	△ 7,823
消耗品費	12,621	27,130	△ 14,509
印刷製本費	54,743	59,971	△ 5,228
機器賃借料	191,064	158,874	32,190
光熱水料費	31,570	25,740	5,830
賃借料	476,565	462,649	13,916
保険料	2,106	11,919	△ 9,813
租税公課	11,800	13,750	△ 1,950
支払負担金	300,000	70,000	230,000
委託費	1,218,082	1,179,663	38,419
機器保守料	57,420	57,420	0
雑費	710,171	462,944	247,227
経常費用計	23,063,896	21,853,766	1,210,130
評価損益等調整前当期経常増減額	10,105,686	6,438,729	3,666,957
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	10,105,686	6,438,729	3,666,957
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
有価証券評価損	2,669,041	0	2,669,041
有価証券評価損	2,669,041	0	2,669,041
経常外費用計	2,669,041	0	2,669,041
当期経常外増減額	△ 2,669,041	0	△ 2,669,041
税引前一般正味財産増減額	7,436,645	6,438,729	997,916
法人税、住民税及び事業税	1,976,629	2,588,830	△ 612,201
当期一般正味財産増減額	5,460,016	3,849,899	1,610,117
一般正味財産期首残高	107,028,098	103,178,199	3,849,899
一般正味財産期末残高	112,488,114	107,028,098	5,460,016
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	233,870,000	233,870,000	0
指定正味財産期末残高	233,870,000	233,870,000	0
III 正味財産期末残高	346,358,114	340,898,098	5,460,016

zensen05 ZENSEN05-PC

2023年 4月 18日 12:59:42

収支計算書

2022年 4月 1日から2023年 3月31日まで

一般社団法人 全日本船舶職員協会

法人【新基準】

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
基本財産運用収入	3,600,000	5,774,978	△ 2,174,978
基本財産配当金収入	3,600,000	5,774,978	△ 2,174,978
特定資産運用収入	1,000	31	969
特定資産利息収入	1,000	31	969
入会金収入	91,000	106,000	△ 15,000
入会金収入	91,000	106,000	△ 15,000
会費収入	9,923,000	8,714,200	1,208,800
正会員会費収入	5,239,000	4,419,200	819,800
賛助会員会費収入	2,650,000	2,150,000	500,000
終身会員会費	494,000	595,000	△ 101,000
準会員会費	1,540,000	1,550,000	△ 10,000
事業収入	8,700,000	9,317,371	△ 617,371
広告収入	700,000	452,000	248,000
施設管理費収入	8,000,000	8,865,371	△ 865,371
雑収入	247,000	9,257,002	△ 9,010,002
受取利息収入	247,000	229,802	17,198
雑収入	0	9,027,200	△ 9,027,200
事業活動収入計	22,562,000	33,169,582	△ 10,607,582
2. 事業活動支出			
事業費支出	18,181,153	17,337,001	844,152
旅費交通費支出	2,271,777	2,082,859	188,918
通信運搬費支出	937,000	1,230,787	△ 293,787
印刷製本費支出	610,000	908,262	△ 298,262
機器賃借料支出	887,000	764,256	122,744
新聞図書費	330,000	246,471	83,529
光熱水料費支出	128,000	126,280	1,720
賃借料支出	1,485,456	1,497,348	△ 11,892
共益費支出	1,883,760	1,883,760	0
保険料支出	98,000	8,428	89,572
租税公課支出	753,000	855,800	△ 102,800
寄付金	3,400,000	4,750,220	△ 1,350,220
支払広告費	149,000	182,600	△ 33,600
委託費支出	2,980,800	2,704,358	276,442
雑支出	470,000	95,572	374,428
管理費支出	3,993,496	4,336,300	△ 342,804
会議費支出	87,000	51,278	35,722
旅費交通費支出	509,408	876,216	△ 366,808
通信運搬費支出	422,000	343,214	78,786
消耗品費支出	88,000	12,621	75,379
印刷製本費支出	554,000	54,743	499,257
機器賃借料支出	222,000	191,064	30,936
光熱水料費支出	27,700	31,570	△ 3,870
賃借料支出	371,388	476,565	△ 105,177
保険料支出	13,000	2,106	10,894
租税公課支出	356,000	11,800	344,200
負担金支出	221,000	300,000	△ 79,000
委託費支出	528,000	1,218,082	△ 690,082
機器保守料支出	57,000	57,420	△ 420
雑支出	537,000	709,621	△ 172,621
事業活動支出計	22,174,649	21,673,301	501,348
小計	387,351	11,496,281	△ 11,108,930
法人税等の支払額	1,976,000	△ 1,976,629	3,952,629
事業活動収支差額	△ 1,588,649	9,519,652	△ 11,108,301
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
基本財産取崩収入	0	20,692,800	△ 20,692,800
投資有価証券売却収入	0	20,692,800	△ 20,692,800
特定資産取崩収入	0	27	△ 27
修繕積立資産取崩収入	0	27	△ 27
固定資産売却収入	0	4,944,051	△ 4,944,051
収益事業準備基金取崩収入	0	4,944,051	△ 4,944,051
投資活動収入計	0	25,636,878	△ 25,636,878
2. 投資活動支出			
特定資産取得支出	0	29,720,577	△ 29,720,577
積立預金支出	0	29,720,577	△ 29,720,577
固定資産取得支出	0	2,775,020	△ 2,775,020
構築物建設支出	0	500,000	△ 500,000
収益事業準備基金取得支出	0	2,275,020	△ 2,275,020
投資活動支出計	0	32,495,597	△ 32,495,597
投資活動収支差額	0	△ 6,858,719	6,858,719
III 財務活動収支の部			
1. 財務活動収入			
財務活動収入計	0	0	0
2. 財務活動支出			
財務活動支出計	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0
IV 予備費支出			
当期収支差額	0	2,660,933	△ 2,660,933
前期繰越収支差額	0	10,418,642	△ 10,418,642
次期繰越収支差額	0	13,079,575	△ 13,079,575

zensen05 ZENSEN05-PC

2023年 4月18日 12:59:45

収支計算書に対する注記

(単位:円)

1. 資金の範囲	科 目	前期末残高	当期末残高
資金の範囲には、現金預金及び預り金を含んでいる。	現金預金	12,170,534	12,789,025
尚、前期末及び当期末残高は、右記に記載のとおりである			
2. 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳	合 計	12,170,534	12,789,025
	預り金	0	0
	合 計	0	0
	次期繰越収支差額	12,170,534	12,789,025

財産目録

2023年 3月31日現在

一般社団法人 全日本船舶職員協会
法人【新基準】

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)				
	現金	手元保管	運転資金として	193,327
	預金	普通みずほ銀行麴町支店		7,231,064
		普通みずほ銀行虎ノ門支店		2,043,746
		普通三菱UFJ銀行麴町中央支店		2,006,177
		普通三井住友銀行神戸		141,710
		三井住友飯田橋		10,411
		三井住友飯田橋普通		10,411
		郵便貯金本部		112,567
		郵便振替貯金		577,668
	前払金			472,355
流動資産合計				12,789,025
(固定資産)				
基本財産				
	定期預金			129,885,040
	基本財産定期預金(指定)			79,885,040
	三井住友飯田橋定期			50,000,000
	基本財産郵便貯金			3,066,159
	郵便定額預金			3,000,000
	郵便貯金			66,159
	投資有価証券			100,000,000
	投資有価証券(指定)			100,000,000
特定資産				
	修繕積立預金			1,428,697
	修繕積立預金			1,428,697
その他固定資産				
	収益事業準備基金			13,563,747
	城南信用金庫			2,244,957
	みずほ定期預金1			3,000,000
	みずほ定期預金2			3,000,000
	みずほ定期預金3			3,043,790
	みずほ定期預金4			2,275,000
	建物			30,527,610
	本部			28,227,456
	支部			2,300,154
	建物附属設備			477,542
	ソフトウェア			1,001,000
	什器備品			70,349
	土地			61,976,936
	本部			46,920,000
	支部			15,056,936
	保証金			544,500
固定資産合計				342,541,580
資産合計				355,330,605
(流動負債)				
	前受金			721,291
	前受会費			600,000
	未払法人税等			1,057,200
流動負債合計				2,378,491
(固定負債)				
	受入保証金			6,594,000
固定負債合計				6,594,000
負債合計				8,972,491
正味財産				346,358,114

財務諸表に対する注記

2023年3月31日現在

1. 重要な会計方針				
「公益法人会計基準」(平成20年4月11日 改正平成21年10月16日内閣府公益認定等委員会)を採用している。				
(1) 有価証券の評価基準及び評価方法				
1. 満期保有目的の有価証券 償却原価法(定額法) によっている。				
2. 満期保有目的以外の有価証券				
期末日の市場価格等に基づく時価法(売却原価は移動平均法により算定) によつてる。				
(2) 固定資産の減価償却の方法				
建物……定額法によっている				
什器備品……定額法によっている				
(3) 引当金の計上基準				
退職給付引当金……期末退職給与の要支給額に相当する額を計上している				
(4) 消費税等の会計処理				
消費税等の会計処理は、税込方式によっている。				
2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高				
基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。				(単位 円)
科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
基本財産定期預金	100,165,040	29,720,000		129,885,040
基本財産郵便貯金	3,066,159			3,066,159
基本財産定額貯金	0			0
投資有価証券	120,692,800		20,692,800	100,000,000
小 計	223,923,999	29,720,000	20,692,800	232,951,199
特定資産				
修繕積立預金	1,428,697			1,428,697
事業安定化基金	0			0
小 計	1,428,697	0	0	1,428,697
合 計	225,352,696	29,720,000	20,692,800	234,379,896
3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳				
基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。				
科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
基本財産定期預金	129,885,040	129,885,040		
基本財産郵便貯金	3,066,159	3,066,159		
投資有価証券	100,000,000	100,000,000		
小 計	232,951,199	232,951,199	0	0
特定資産				
修繕積立預金	1,428,697		1,428,697	
事業安定化基金	0			
小 計	1,428,697	0	1,428,697	0
合 計	234,379,896	232,951,199	1,428,697	0
4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高				
固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。				
科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高	
建物	49,807,630	19,280,020	30,527,610	
ソフトウェア	2,418,148	1,417,148	1,001,000	
建物附属設備	500,000	22,458	477,542	
什器備品	429,450	359,101	70,349	
合 計	53,155,228	21,078,727	32,076,501	
5. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益				
満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおり。				
科 目	帳簿価額	時価	評価損益	参考評価情報
基本財産				%
三菱UFJ証券PRD債	100,000,000	86,568,000	-13,432,000	86.568%
合 計	100,000,000	86,568,000	-13,432,000	

2023年4月19日

一般社団法人 全日本船舶職員協会
会長 広重康成 殿

監事 徳嶋明宏
監事 文谷嘉宏

監査報告書

我々は、2023年4月19日に2022年4月1日から2023年3月31日までの2022年度における会計及び業務並びに公益目的支出計画の実施状況について監査を行いました。

その結果について次の通り報告致します。

1 監査方法の概要

1. 会計監査については、会計帳簿及び関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて計算書類及びその附属書類の明細の正確性を検討しました。
2. 業務監査については、理事会及びその他の書面決議をメールにて業務の報告を受け、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて業務執行の妥当性を検討しました。
3. 公益目的支出計画実施報告書については、事業報告・計算書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて公益目的支出計画実施状況の妥当性を検討しました。

2 監査意見

1. 計算書類および附属明細書の内容は、事実であると認めます。
2. 事業報告およびその附属明細書の内容は、事実であることを認めます。
3. 理事の職務遂行に関する不正行為または法令および定款に違反する重大な事実はないものと認めます。
4. 公益目的支出計画実施報告書は、法令または定款に従い法人の公益支出計画の実施の状況を正しく示していると認めます。
5. 評価すべきは、かねてより行っている 5 商船系高専の校内練習船の代替新造船計画支援が、今年度は第1船となる『大島丸』の引き渡し、第2船の『弓削丸』の起工式の挙行、『鳥羽丸』の予算獲得と着実に実を結んでいる点である。引き続き継続的な支援をお願いしたい。

2023 年度 事業計画

2023 年度事業計画は、公的命題である年間 14,510,900 円を維持する公益目的支出計画事業を実行することが必要不可欠である。2023 年度の事業活動収入概算は、①会費（正会員・準会員・賛助会員）収入、②施設管理（不動産賃貸）収入および、③基本財産運用収入等の合計約 2200 万円である。従って、収支均衡を基本とし、公益目的支出計画事業（継続事業 1～4）及びその他事業を下記の通り策定した。

なお、この事業計画に基づく 2023 年度予算案は別紙の通りである。

1 公益目的支出計画事業

(1) 海事に関する調査研究（継続事業－1）

- ア HTW（人的因子、訓練及び当直小委員会）調査検討に関する専門委員会へ参加して本協会の意見を述べると共に、情報を収集して必要事項を海事技術者に発信する。
- イ STCW 条約等の教育訓練に係る提案に対して本協会の意見を述べると共に教育機関と共有の上、船員教育に役立てる。
- ウ 日本近海における海洋資源開発、具体的に今世紀中の温室効果ガス（GHG）排出ゼロを目指す取り組み対策並びに省エネ取組等の情報収集を行うと共に、ホームページ等で海事技術者等一般社会へ発信する。

(2) 商船教育支援（継続事業－2）

- ア 5 商船系高専商船学科支援については、5 校校長懇談会および商船学科長を中心とした商船学科振興協議会を開催して具体的な支援事業を実施する。
具体的には、学生募集対策費用および英会話教育対策費用（TOEIC 受験等）さらに海技士免許取得および就職等に関する学生支援等の商船学科の充実支援並びに 5 校漕艇大会の支援を実施する。
- イ 独立行政法人国立高等専門学校機構における「次世代の海洋人材育成に関する協議会」の委員として参画する。
- ウ 5 校商船系高専が実施している次世代の海洋人材の育成に関する事業「海事・海洋分野の人材育成事業の実施」プロジェクトに運営委員として参画する。
- エ 海事・海洋人材によるキャリア教育「海事キャリア教育セミナー」に講師を派遣する。
- オ 商船系高専の運営評議委員会に委員として参画する。（富山高専、大島商船高専）
- カ 5 校商船学科卒業式に参列し全船協会長の祝辞を述べる。（各校出身理事代読）

キ 日本船主協会主催 5 校商船学科への合同進学ガイダンスを後援する。(横浜及び神戸等にて開催)

(3) 図書・会誌の発行及び講演等 (継続事業-3)

ア 会報を年 3 回発行する。(新春号、春季号、夏季号)

イ 講演会または座談会を継続して実施する。

ウ 協会ホームページにて、会員及び海事技術者等一般社会へ海事に関する最新情報を提供する。

エ 5 校への会報配付は商船学科の準会員、5 年生及び関係教職員へ無償配布する。

オ 独立行政法人海技教育機構練習船の「全船協文庫」へ新刊を寄贈する。

(4) 無料船員職業紹介事業 (継続事業-4)

ホームページにて最新の求人・求職状況を海事技術者に提供すると共に若年船舶職員の転職相談等に取り組む。

2 収益事業

ア 2018 年 4 月 1 日に開始した千代田三信ビル 8 階部分の賃貸事業を継続する。

イ 2021 年 1 月 1 日に開始した三宮ベンチャービル 4 階部分の賃貸事業を継続する。

3 会員の維持拡大と会の活性化

(1) 会員の維持拡大

ア 商船学科新入生の準会員及び卒業生の正会員入会を促進する。

イ 未入会 OB の入会を促進する。

ウ 企業・団体に賛助会員の入会を促進する。

(2) 協会の活性化

ア 協会の活動をホームページに掲載し、本部から会員へ発信する。

イ 日本海洋少年団連盟の活動に参画し、本協会をアピールし、5 校商船学科への入学を促進する。

4 海事団体への参画

(1) 役員・委員に就任している関連団体

ア (公財) 日本殉職船員顕彰会 理事・監事・催事委員・実行委員

イ (公社) 日本海難防止協会 理事

ウ (公財) 海技教育財団 理事・評議員・奨学生選考委員

エ (一財) 海技振興センターHTW 調査検討に関する専門委員会 委員

オ (公社) 日本海洋少年団連盟 役員選考委員会委員

カ (公財) 帆船日本丸記念財団 評議員

キ (一社) 横浜港振興協会・カッターレース実行委員会 副委員長

(以上)

一般社団法人 全日本船舶職員協会 法人【新基準】									税込 累計
									単位：円
科目	法人会計	海事調査事	商船教育	会誌発行	就職紹介	継続事業計	施設管理事	その他 事業計	総合計
I 一般正味財産増減の部									
1. 経常増減の部									
(1) 経常収益									
基本財産運用益	3,600,000	0	0	0	0	0	0	0	3,600,000
基本財産受利息	0	0	0	0	0	0	0	0	0
基本財産受配当	3,600,000	0	0	0	0	0	0	0	3,600,000
特定資産運用益	1,000	0	0	0	0	0	0	0	1,000
特定資産受利息	1,000	0	0	0	0	0	0	0	1,000
受取入金	91,000	0	0	0	0	0	0	0	91,000
受取入金	91,000	0	0	0	0	0	0	0	91,000
受取会費	9,923,000	0	0	0	0	0	0	0	9,923,000
正会員受取会費	5,239,000	0	0	0	0	0	0	0	5,239,000
賛助会員受取会費	2,650,000	0	0	0	0	0	0	0	2,650,000
終身会費	494,000	0	0	0	0	0	0	0	494,000
準会員会費	1,540,000	0	0	0	0	0	0	0	1,540,000
事業収益	0	0	0	700,000	0	700,000	8,000,000	8,000,000	8,700,000
会報広告収入	0	0	0	700,000	0	700,000	0	0	700,000
施設管理収益	0	0	0	0	0	0	8,000,000	8,000,000	8,000,000
業務委託収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0	0
雑収益	247,000	0	0	0	0	0	0	0	247,000
雑収益	247,000	0	0	0	0	0	0	0	247,000
受取利息	247,000	0	0	0	0	0	0	0	247,000
経常収益計	13,862,000	0	0	700,000	0	700,000	8,000,000	8,000,000	22,562,000
(2) 経常費用									
事業費	0	2,373,378	6,415,751	3,846,704	1,872,559	14,508,393	3,672,760	3,672,760	18,181,153
給料手当	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福利厚生費	0	12,040	18,270	19,670	10,500	60,480	0	0	60,480
会議費	0	75,000	75,000	75,000	75,000	300,000	0	0	300,000
旅費交通費	0	415,854	718,947	797,500	339,475	2,271,777	0	0	2,271,777
通信運搬費	0	106,000	160,000	565,000	106,000	937,000	0	0	937,000
減価償却費	0	130,000	130,000	130,000	126,000	516,000	920,000	920,000	1,436,000
建物減価償却	0	14,000	14,000	14,000	14,000	56,000	920,000	920,000	976,000
ソフトウェア減価償却	0	28,000	28,000	28,000	28,000	112,000	0	0	112,000
ソフトウェア減価償却	0	80,000	80,000	80,000	80,000	320,000	0	0	320,000
備品原価償却	0	8,000	8,000	8,000	4,000	28,000	0	0	28,000
印刷製本費	0	8,000	8,000	586,000	8,000	610,000	0	0	610,000
機器賃借料	0	222,000	222,000	232,000	211,000	887,000	0	0	887,000
新聞図書費	0	323,000	7,000	0	0	330,000	0	0	330,000
光熱水料費	0	27,720	27,720	27,720	27,720	110,880	18,000	18,000	128,880
賃借料	0	371,364	371,364	371,364	371,364	1,485,456	0	0	1,485,456
保険料	0	0	0	0	0	0	98,000	98,000	98,000
租税公課	0	0	0	0	0	0	753,000	753,000	753,000
共益費	0	0	0	0	0	0	1,883,760	1,883,760	1,883,760
支払負担金	0	0	0	0	0	0	0	0	0
支払助成金	0	0	0	0	0	0	0	0	0
寄付金	0	0	3,400,000	0	0	3,400,000	0	0	3,400,000
支払広告費	0	42,000	48,000	26,000	33,000	149,000	0	0	149,000
委託費	0	593,400	900,450	969,450	517,500	2,980,800	0	0	2,980,800
雑費	0	47,000	329,000	47,000	47,000	470,000	0	0	470,000
管理費	4,245,516	0	0	0	0	0	0	0	4,245,516
給料手当	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福利厚生費	90,000	0	0	0	0	0	0	0	90,000
会議費	87,000	0	0	0	0	0	0	0	87,000
旅費交通費	509,408	0	0	0	0	0	0	0	509,408
通信運搬費	422,000	0	0	0	0	0	0	0	422,000
減価償却費	162,000	0	0	0	0	0	0	0	162,000
建物減価償却	14,000	0	0	0	0	0	0	0	14,000
ソフトウェア減価償却	64,000	0	0	0	0	0	0	0	64,000
ソフトウェア減価償却(名簿管理)	80,000	0	0	0	0	0	0	0	80,000
備品原価償却	4,000	0	0	0	0	0	0	0	4,000
消耗品費	88,000	0	0	0	0	0	0	0	88,000
印刷製本費	554,000	0	0	0	0	0	0	0	554,000
機器賃借料	222,000	0	0	0	0	0	0	0	222,000
光熱水料費	27,720	0	0	0	0	0	0	0	27,720
共益費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
賃借料	371,388	0	0	0	0	0	0	0	371,388
保険料	13,000	0	0	0	0	0	0	0	13,000
租税公課	356,000	0	0	0	0	0	0	0	356,000
支払負担金	221,000	0	0	0	0	0	0	0	221,000
委託費	528,000	0	0	0	0	0	0	0	528,000
機器保守料	57,000	0	0	0	0	0	0	0	57,000
雑費	537,000	0	0	0	0	0	0	0	537,000
経常費用計	4,245,516	2,373,378	6,415,751	3,846,704	1,872,559	14,508,393	3,672,760	3,672,760	22,426,669
評価損益等調整前当期経常増減額	9,616,484	-2,373,378	-6,415,751	-3,146,704	-1,872,559	-13,808,393	4,327,240	4,327,240	135,331
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	9,616,484	-2,373,378	-6,415,751	-3,146,704	-1,872,559	-13,808,393	4,327,240	4,327,240	135,331
2. 経常外増減の部									
(1) 経常外収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0	0	0	0	0	0	0
有価証券売却損	0	0	0	0	0	0	0	0	0
有価証券売却損	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	9,616,484	-2,373,378	-6,415,751	-3,146,704	-1,872,559	-13,808,393	4,327,240	4,327,240	135,331
法人住民税事業	842,715	0	0	0	0	269,887	0	281,700	1,124,415
当期一般正味財産増減額	8,773,769	-2,373,378	-6,415,751	-3,146,704	-1,872,559	-13,808,393	4,057,353	4,045,540	-989,084
一般正味財産期首残高	195,242,194	-15,636,620	-35,326,988	-24,555,226	-11,112,214	-86,631,048	3,459,310	3,798,947	109,825,686
一般正味財産期末残高	204,015,963	-18,009,998	-41,742,739	-27,701,930	-12,984,773	-100,439,441	7,516,663	7,844,487	108,836,602
II 指定正味財産増減の部									
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	233,870,000	0	0	0	0	0	0	0	233,870,000
指定正味財産期末残高	233,870,000	0	0	0	0	0	0	0	233,870,000
III 正味財産期末残高	437,885,963	-18,009,998	-41,742,739	-27,701,930	-12,984,773	-100,439,441	7,516,663	7,844,487	342,706,602

C号航海記（第2回）

内海水先区水先人会水先人 会員 栗 阪 肇

前号まで： 船長として初実職は、石炭船 C 号であった。熊本県苓北で乗船し、豪州 Dalrymple Bay で石炭を積み、揚地は広島県竹原と横浜の 2 港であった。

6-11) 船員制服店アリマ

本船 C 号に乗船する直前の休暇中へ、時計の針を戻します。

6 月 25 日 10 時の開店時間に間に合うように、当時の住まいのあった愛媛県四国中央市から元町（神戸市）へと向かいました。最寄駅から特急電車に乗車、岡山駅で新幹線に乗り換え、新神戸駅で下車。新神戸駅からは市営地下鉄で三ノ宮、三ノ宮で JR に乗り換えて元町駅西改札口を出ました。

改札口を出てすぐ南には、交差点がありません。交差点で信号待ちをしている時、ネクタイをしていませんでしたがスーツを着ていたからでしょうか、日差しが強く汗がにじんできました。信号が青になるまでの短い時間、駅高架下の日陰に入りました。

交差点を渡るとウインズ神戸（競馬の場外馬券売り場）があります。ウインズ神戸 1 階には、地下にある阪神元町駅の地上出入口があります。阪神元町駅から元町商店街までは、車 1 台がやっと通ることのできる路地が南へ続きます。路地は商店街よりもさらに南へと続きますが、商店街に入ると右手に折れます。アーケードの両側には商店が並んでいますが、10 時前なので開店しているお店と準備中のお店とが半々でした。

このアーケード沿いを進めば、阪神淡路大震災前からお世話になっている海事専門書を取り扱っている海文堂書店と、船員制服店



船員制服店 アリマ

アリマがあります。いつもこの商店街を歩いていると、約 20 年前の商船学校時代へとタイムスリップする感覚に襲われます。

地下鉄も大きなビルもない岡山県倉敷市の片田舎（生家）から、外航船員に憧れて神戸に出てきた著者は、まず、地下鉄の乗り方、自動改札口の通過から初めてで戸惑いました。①阪神電車は特急・急行・普通電車など同じ運賃で乗車できるのを知ったのは入学してから半年後でした。それまでの間、普通電車で学校の最寄り駅である阪神深江から元町・三ノ宮・大阪梅田などへわざわざ時間をかけて出かけていました。②自動改札を知らない私は切符を左手（正しくは右です）で改札に入れて、ドアが閉まりサイレンが鳴り

響き後ろに続くお客さんや駅員さんに迷惑をかけたこともあります。③地下鉄の乗り換えでは、地下にあることから（空が見えないので）方向が分からなくなり迷子になっていました。④ビルを見上げると、高さのため首がいたくなっていました。

上記①から④以外にも、田舎育ちの著者には神戸が都会過ぎました。その代表がこの元町商店街です。特に、阪神淡路大震災よりも前、その商店街の規模、商店街の人々や通行人の服装、言葉（神戸弁）、取り扱っている商品など見るもの全て初めてでした。

まるで外国にいる様で、目にするもの全てが光り輝いて見えました。とても華やかな舞台でした。その時、強く感動したのだと思います。その時の記憶が鮮明すぎて、今回も含めて毎回タイムスリップが起きるのです。

社会人になってすぐ、制服を新調しました。冬制服は、とくにズボンが少しだけきつくなっていたので、今回の休暇中（船長となったタイミングで）上下とも新しくすることにしました。体重は当時と変化ないのですが、重力のためか上にあった筋肉（？）が下に落ちてきて、お腹周りが少しきつくなったのです。過去の乗船休暇中には、最低1回は海文堂書店とアリマとに足を運んでいました。いつも「船長になったら、制服を新調します」といって制服以外の作業服、作業帽、肩章（階級章）、胸章（階級章）、ベルト、キーホルダーなどを購入していました。

6-12) 海文堂書店

アリマを後にすると、元町商店街を逆に三ノ宮方向へ進みました。海文堂書店へ向かうためです。海文堂は1030時に開店します。まだ10分ほど早いので近くの喫茶店で涼むことにしました。アイスコーヒーを注文して店内を見回すと、客船の模型や舵が置いてありました。理由を聞くと、マスターはヨット



船員制服店 アリマ(2012年6月撮影)

乗りだということが判明しました。

今回は10分しかないので、「ヨットの話の続きは、次回お店を訪れたときをお願いします」と言って書店に急ぎました。元町には、何軒かそういった船のグッズを飾っている喫茶店があります。マスターの多くは、ヨット乗りかもしれません。

海文堂1階は、普通の本屋さんです。2階に海事専門書やキーホルダー、マグカップ、バッジ、絵葉書、ポスターなどのマリン・グッズを置いていました。但し、専門書を置いているスペースが著者の学生時代から比べると年々小さくなっているのが寂しいのです。お店のスタッフにその理由を尋ねると、「売れないから」とのことでした。(海文堂書店は、2013年9月末を持って閉店しました)

6-13) 船長制帽

海文堂を後にした私は、新神戸駅へ急ぎました。新幹線に乗って広島駅へ、広島駅で呉

線に乗り換えて呉駅を目指しました。船長制帽を新調するためです。

アリマも船長制帽を取り扱っているのですが、著者の頭には商船学校時代から既製品が合わなかったのです。旧・運輸省航海訓練所（現在の海技教育機構）で活躍している知人に、高田帽子店を紹介してもらい、初めて航海士の制帽をオーダーメイドしたのが2008年5月でした。高田帽子店の女将さんの話では、お店では帽子のサイズは0.5cm単位で採寸するとのこと。既製品は1cm単位なのでびっくりです。

高田帽子店は、戦前は旧海軍御用達、現在は海上自衛隊特約店です。注文を受けた帽子は、3代目帽子職人であるご主人が1つ1つ丁寧に手作りされています。機械（ミシン）ではなく、手作りであることに驚きました。大量生産はできないのです。

海上自衛隊に勤務している商船学校の同期も、高田帽子店の品質は日本一だと高く評価しています。NHK広島放送局が開局80周年を記念して制作放送したドラマ「帽子」。このドラマの舞台となったが高山帽子店、そのモデルになった帽子屋さんです。残念ながら、著者は乗船中であつたのでそのドラマを見ることができませんでした。

とても良いドラマであつたことを後で知って、私はNHK広島放送局に問い合わせた録画DVDがあれば購入したい希望を伝えましたが、手に入れることができませんでした。



船長制帽の天井裏



高田帽子店の店内

ご主人も奥様（女将さん）も、とても気さくな方で、前回（4年前）も今回も世間話を楽しんでいると時間が過ぎることの早いこと。早いこと。前回訪れた時、女将さんから教えてもらったことを思い出しました。現在の主なお客様は海上自衛隊です。電話やFAXで注文ができるのですが、ごく稀にお店に来て注文される方がいるそうです。それらの方の話を総合すると、その道（ここでは海上自衛隊）のプロになるには2つの方法があり、①技術を含めて自己を磨く。②外見を整える。女将さんからその話を伺うまでは、著者は②はそんなに重要ではなく、①を重視して切磋琢磨していれば良いと理解していました。しかし、②から入って①に進む方もいることを知りました。

その方が早くプロになることができるそうです。確かに、制服・制帽に身を包むと、それを上手く着こなそうと（似合うように）本人の意識を高めることになります。制服を

着ると、さまざまな制約があって気をつかいます。高田帽子店を後にして、広島駅の新幹線乗り場に到着したのは1530時でした。

商船学校時代、当時珍しく苦学生だったのが著者でした。成績の悪かった著者は受験浪人して商船学校へ入学しました。そのため、親にこれ以上経済的な迷惑をかけることができなかつたので、在学中は学校・学校図書館・学生寮との往復でした。同期や先輩の紹介で、たまにアルバイトに行っていました。その他出かけるとしたら、海文堂書店でした。図書館で見つけた1冊の本、『アメリカ海軍士官候補生読本 リーダーシップ』アメリカ海軍協会編集 武田文男・野中郁次郎共訳 1981年 日本生産性本部刊

C号に乗船中、高田帽子店の女将さんの言葉が少しだけですが理解できたのです。商船学校時代の著者ら学生は「商船士官候補生」。船の種類は違いますが、アメリカ海軍や海上自衛隊の士官（幹部）候補生と共通する項目があると理解しました。上述の士官候補生読本に、女将さんの言葉①②と同じような内容が説明されていたのです。

読本のあとがきに興味深い記述がありました。以下原文ママ<武田の日記をひもとくと、本書翻訳の契機は昭和44年8月27日、日本原子力船開発事業団北川次郎氏（元東京商船大学教授）に東芝で「帆船日本丸の船長として体験された若年層の実践指導について」の講演の後で原書を紹介されたことに始まる。また、武田が企業の管理監督者のリーダーシップに適切な参考図書を調査検討していた> <本書の翻訳が、組織において日々リーダーシップを実践されている方々ならびに日米リーダーシップの比較研究者にいささかのお役に立てば、訳者の望外な喜びである。>

苦学生から20年近く、もう一度初心に戻って学生時代の教科書について、復習する必

要があります。当時勉強したつもりでもすっかり忘れていました。

（日本原子力船開発事業団とは、現在の日本原子力研究開発機構です）

6-14) 船舶職員の業務

C号に乗船するまで、特に一等航海士として9隻乗船していた30代、はたから見てみると船長とは「お気楽な仕事」だと勘違いしておりました。

長い航海士時代、航海中は航海当直という大きな仕事があつて、1日のうち4時間を2回、計8時間操船しなければなりません。その他、書類の作成など事務仕事。機関室を除く、甲板上や船橋の航海計器や様々な機器類の保守点検。本船のような貨物船には、客船や官庁船と違って、医者や看護師が乗り組んでいないため、その代わりとしての衛生管理者の仕事。

著者が練習船実習生時代から三等航海士時代までは同乗していた通信長（士）もC号乗船中の現在はいないので、陸上の海岸局と本船との無線通信の業務などなど。海上にも人員削減の波（GMDSS）がやってきました。

船長は航海当直がないので、朝普通の時間に起床して、夜普通の時間に床就できるので、健康的で羨ましかったのです。

会社・船種によって異なりますが、船長を含めて貨物船の船舶職員（古い言葉では「高級船員」「商船士官」）の職務について皆様（特に現役学生さん）に簡単にご紹介致します。

船長： 乗組員の人事権・給与支払。食料購入費用の支払い。船内秩序の維持。機密保持。船舶輻輳海域での操船など。（後ほど登場しますが、機密保持について失敗談あり）。
一等航海士： 航海当直（04-08、16-20時）、荷役作業の責任者、甲板部・事務部の掌握。船長の補佐。出入港では船首配置。

二等航海士： 航海当直 (00-04、Noon-16)、荷役当直 (00-06、Noon-18)、航海計器の保守点検、海図など図書類の保守、操舵機の保守点検、出入港では船尾配置。

三等航海士： 航海当直 (08-Noon、20-M.N.)、荷役当直 (06-Noon、18-M.N.)、救命設備・消火設備の点検保守、雑用 (船内パーティーの司会・映画 DVD の管理など)

次席三等航海士： 新入社員、三等航海士の見習い。

機関長： 機関士と機関部のマネジメント。

一等機関士： 機関当直 (04-08、16-20 時※)、機関部の掌握、機関長の補佐。主機・補機全体の運用 (タービン船ではプラント管理)

二等機関士： 機関当直 (00-04、Noon-16※)、主機の保守管理。

三等機関士： 機関当直 (08-Noon、20-M.N.※)、補機 (主機以外の機器全般) の管理。

次席三等機関士： 新入社員、三等機関士の見習い。

機関士の機関当直 (※) については、M0 運転 (機関区域無人化船) をしている船が多く、機関士は Day Work (08-Noon、13-17 時) に従事していることがあります。

それ以外の職種として、

SSO : Ship Security Officer の略で、船舶保安管理者。船長または一等航海士が兼任する。

兼務通信長： 通信長、通信士 (無線部) の業務であった通信機器の操作のみ。保守点検の業務については、陸上保守となった。航海士が兼務することが多い。

衛生管理者： 船医・看護師の業務であった医務部の簡易業務。急病人発生の時、最寄りの港 (船医が乗船している官庁船) まで患者を安静にするための抗生物質 (医薬品) の管理・患者への投与のみ。航海士または機関士が兼ねる。

著者の例では、次席三等航海士※ (VLCC)、三等航海士 (LNG 船×2 隻、自動車船、コンテナ船)、次席二等航海士 (LNG 船)、二等航海士 (LNG 船)、陸上勤務 (東京)、次席一等航海士 (LNG 船)、首席一等航海士 (LNG 船×6 隻)、陸上勤務 (愛媛県)、一等航海士 (チップ船 A 号、鉾炭船 B 号)、船長 (石炭船 C 号、ハンディサイズバルカー D 号、パナマックスバルカー E 号・F 号) の合計 20 隻。

※近代化船の VLCC でしたので、正確には航海士ではなくて航海士と機関士とを兼務する運航士。LNG 船の次席二等航海士は、DOCK 航海であったので臨時。LNG 船には一等航海士と一等機関士が常時 2 名ずつ配乗していたので首席と次席とを区別。乗船中、職位が変更したものは省略した。

(次号へつづく)



船長制帽



富山高等専門学校

4月4日(火)に入学式が挙行政され、新入生が入学しました。入学式が今年度の富山高専の最初の行事であり、これまで日々、教職員・学生ともに過ごしております。

新型コロナウイルス感染症の位置付けが令和5年5月8日をもって「5類感染症」となり、社会全体の雰囲気はコロナ前に戻りつつあるように感じております。一方で、感染症としての脅威は未だあり、教職員・学生ともに各自が感染対策を行い、相互に呼びかけを行うことはこれまで同様に必要であると認識しております。

令和5年度のこれまでの本校での取り組みをご報告させていただきます。

○ 令和5年度入学式を挙行政

令和5年度入学式が令和5年4月4日(火)に富山市芸術文化ホール(オーバード・ホール)にて挙行政されました。新型コロナウイルス感染防止対策を講じた上で、入学式を挙行政することができました。入学式では國枝校長が入学者の名前を一人ずつ読み上げ、その後、式辞を述べました。つづいて、新入生代表挨拶にて、本科・専攻科それぞれの代表者が入学後の決意を誓いの言葉として述べました。

令和5年度4月入学者は以下の通りです。

<学科新入生>

機械システム工学科	40名
電気制御システム工学科	42名

物質化学工学科	40名
電子情報工学科	43名
国際ビジネス工学科	42名
商船学科	42名

計 249名

<編入学留学生(学科3年次へ)>

電気制御システム工学科	1名
物質化学工学科	1名

計 2名

<編入学生(学科4年次へ)>

国際ビジネス学科	1名
----------	----

<専攻科>

エコデザイン工学専攻	27名
制御情報システム工学専攻	11名
国際ビジネス学専攻	6名
海事システム工学専攻	0名
海洋資源環境学連携教育プログラム	2名

計 46名



入学式の会場の様子(新入生)



入学式の会場の様子(壇上)

○ 新入生の練習船「若潮丸」オリエンテーションを実施

4月12日(水) 商船学科、6月21日(水) 電子情報工学科、7月5日(水) 国際ビジネス学科の学生が午後半日をかけて若潮丸に乗船しました。

バスで臨海実習場に到着したあとは一旦、艇庫に集合しました。中学生のときにオープンキャンパス等で商船学科関係イベントに参加したことのある学生やカッター部以外では初めての臨海実習場・艇庫になったものと思います。

広いスペースで様々な用具が揃っている艇庫を拝見することで本校の充実した設備の一端を垣間見ることになったと思います。



艇庫で集合の様子

そのまま船長や一等航海士の案内で乗船し、木甲板に集合しました。各クラス4班に分かれ

て甲板、船橋、居室、機関室をまわりました。



「若潮丸」乗船と木甲板での集合

艇庫に続き、多くの新入生は練習船「若潮丸」への最初の乗船となりました。商船学科の学生はこれからの5年半の商船学の学びを深める最初の一步になったものと思います。2年生後半では航海/機関コースの選択をします。1年生のオリエンテーションや乗船実習での経験もコース選択の参考になるものと思います。

商船学科だけでなく、電子情報工学科、国際ビジネス学科の学生らもそれぞれの専門につながる学びを得られたことを期待しております。

港は物流の入口であり、普段の生活では見学することがない港湾を、富山高専に入学することで、その貴重な機会を得たものと思います。国際ビジネス学科の学生にとって、港が物流の入口であることを実際に目で見て実感できたものと思います。発電所や工場など港に隣接する様々な施設を海側から見る経験となりました。また、電子情報工学科の学生にとっても日々進化する船舶の情報通信技術がどのようなもので、なぜその情報を必要とするか説明を受けました。大洋を航行する船舶の安全運航には情報通信技術は欠かせません。多種多様な技術が船舶航行に内在していることを実感できたと思います。

射水キャンパス3学科の卒業生のうち、商船学科以外の学科出身であっても1年生のときに

乗船した若潮丸が印象に残っているという感想をよく聞きます。この半日が、卒業後も忘れられない体験となり、将来につながる経験になることを願っております。



臨海実習場に停泊中の練習船「若潮丸」

○ 保護者による授業参観を実施

4月28日（金）、射水キャンパスでは昨年度に引き続き、保護者による授業参観を行いました。多くの参加者があり、あらかじめ用意・確保されていた駐車スペースがいっぱいになるほどの保護者に来校頂きました。

一年生は入学して約一ヶ月が過ぎており、入学当初は不安もあったかと思いますが、慣れてきた様子も見受けられたものと思います。

授業参観の後も昨年度に引き続き、希望者を対象とした校内見学を行いました。

一時間ほどの時間をかけて校内の施設を見学しました。教室だけでなく、グラウンドや体育館、ディーゼルエンジン、演習室、図書館、実習工場など本校での学びを深めるための設備が紹介されました。

短い時間ではありましたが本校での学びの様子が伝わったものと思います。

【 教務主事補 商船学科 経田僚昭 】

<学生会活動>

○交通安全講習会

4月26日（水）、4年生・5年生・専攻科生を対象として、交通安全講習会が行われました。

射水警察署から講師をお招きし、交通事故防止のために注意すべき点などをお話して頂きました。講習会の後は、JAF 富山支部より派遣いただいたシートベルトコンビンサー（模擬衝突体験車）に乗車し、シートベルトの重要性を体験することができました。

○ 春季球技大会

5月23日（火）、春季球技大会を実施しました。途中雨が降るなどの天候の中、体育委員会が中心となって開催されました。

競技内容や競技ルールは感染症対策に十分配慮し、サッカー、キックベースボール、バスケットボールおよびアルティメットの4競技を実施しました。



春季球技大会

○ 熱中症対策講座

6月21日（水）、熱中症対策講座を開催しました。本校学校薬剤師の青塚保志先生を講師に迎え、熱中症の原因と症状、熱中症になった時の対処法などを学びました。各クラブ・同好会の表学生らが受講しました。



熱中症対策講座

○ 校内カッターレース大会

7月6日(木)、校内カッターレース大会が開催されました。途中、風が強くなり安全面を考慮の末、残念ながらレースは途中中断となりましたが、大きな事故も無く、校内企画も盛況に行われ、無事に大会を終えることができました。



校内カッターレース大会



校内企画の様子

<課外活動>

○ 北陸地区高専体育大会

6月24日(土)から7月9日(日)にかけて、北陸地区高専体育大会が開かれました。

射水キャンパスからは、陸上・バスケットボール・テニス・野球・サッカー・卓球・バドミントン・水泳・剣道・柔道・ラグビーフットボールが出場しました。

サッカーは7月15日(土)から17日(月)に開催予定です。



北陸地区高専体育大会(テニス)



北陸地区高専体育大会(野球)

【 学生主事補 商船学科 小林 大 】

「北斗会便り」

豪雨をもたらして梅雨入りした日本列島、各地での被害状況が心配されるところです。こちら北陸では昨年より続いていた能登地震が5月

には M6.5 の大きな地震が発生し被害も甚大な状況でした。

石川県珠洲市内には北斗会会員は 20 数名居住されていますが、調査した結果は幸いにも被災されたとの報告はありませんでした。能登半島では未だ余震が続いている状況なので安心できない日々が続いています。

○ 神戸港・横浜港カッターレース

5 月 14 日には神戸港、5 月 21 日には横浜港で行われたカッターレースに我が北斗会会員も参加して活躍した模様です。

毎年両港でカッターレースが行われていることはご存知の方も多いと思いますが、来年にも是非参加してみませんか。

レース成績は別として、終了後の打ち上げレースがかなり盛り上がるようです。



○ 令和5年度 北斗会総会

6 月 3 日（土）に富山電気ビルで令和 5 年度北斗会総会が開催されました。

全国 5 支部長をはじめ二十代から八十代まで 28 名の会員で理事会、総会、懇親会とも昨年引き続き対面方式で行いました。

今回の特徴は参加者の平均年齢がかなり下がったことと、初参加者が増えたことが大きな成果でした。



【「北斗会」事務局 佐々木 正】

鳥羽商船高等専門学校

○ (公財)日本英語検定協会から「優秀団体賞」を受賞しました

この度、公益財団法人 日本英語検定協会から「優秀団体賞」を受賞いたしました。

「優秀団体賞」は、令和3年度実用英語技能検定に多数の受験者が参加し、その成績が非常に優れている団体を表彰するものとなります。



を目的として毎年実施されているもので、今回が6回目の開催となります。



○ みえ半導体ネットワーク設立総会に参加しました

令和5年3月2日(木)に開催されたみえ半導体ネットワーク設立総会に、本校から和泉校長が出席しました。

本ネットワークは、半導体の安定供給に向けた専門人材の確保が課題となっていることを受け、三重県が呼びかけて設立されたもので、本校を含む県内産官学機関にて構成され発足しました。

半導体関連企業によるインターンシップの受け入れや大学への講師派遣などを通じ、企業と学生の結びつきを強める方針で、長期的には共同研究や社員向けのリカレント教育も進めるものとなります。

○ 第3ブロック専攻科研究フォーラムにて優秀賞を受賞!

令和5年2月24日に開催された第3ブロック専攻科研究フォーラムにて、本校の専攻科の学生2名が優秀賞を受賞いたしました。

本フォーラムは、第3ブロック地区(近畿・東海・北陸地区)に所属する高専の専攻科生が日頃の研究成果を発信し、議論・情報交換することでブロック全体の研究を推進すること



○ 新艇の小型船舶「あけぼの」について

令和5年3月9日に新しい小型船舶「あけぼの」が納品されました。

海事DX人材育成を目的とし、小型船舶と操船シミュレータを連携することにより、航行情報がデジタル化され、より実践的な船舶運航実習を実現することができるようになります。



○ BS よしもと企画「となりマッチ」に出演しました

令和4年3月27日(月)にBSよしもとで放映されている番組「となりマッチ」に出演しました。

本番組では、3つのテーマで岐阜工業高等専門学校とプレゼンバトルを行いました。

番組はYouTubeで配信されていますので、是非ともご視聴ください。

○ 第34回電子機械工学科及び第31回制御情報工学科卒業証書授与式並びに第17回専攻科(生産システム工学専攻)修了証書授与式を挙行了しました

令和5年3月18日(土)、第34回電子機械工学科及び第31回制御情報工学科卒業証書授与式並びに第17回専攻科(生産システム工学専攻)修了証書授与式を鳥羽市民体育館サブアリーナで挙行了いたしました。

平成31年度に電子機械工学科及び制御情報工学科が統合し、新学科の情報機械システム工学科ができたことにより、今年度の電子機械工学科及び制御情報工学科の卒業生たちがこの2学科最後の卒業生となります。

式典では、和泉校長から学生一人ひとりに証書が授与された後、「これからの人生、良いこともあれば難しい問題にぶつかることもあります。みなさんはひとりではない。今日ここに集まっている卒業生の友人、保護者、教職員の方々、先輩や後輩たちと絆をしっかり結んでください。」と式辞が送られました。

卒業生、修了生は鳥羽商船高専での思い出を胸に、晴れやかな姿で本校を巣立っていきました。



○ 令和5年度入学式を挙行了いたしました

令和5年4月5日(水)、令和5年度入学式を挙行了いたしました。

今年度は、商船学科41名、情報機械システム工学科83名、合計124名の本科新入生、さらに専攻科生産システム工学専攻に10名の進学者、専攻科1名を含む3名の留学生を迎えました。

和泉校長から式辞が述べられた後、情報機械システム工学科の新入生代表と専攻科生産システム工学専攻の進学者代表それぞれから新しいスタートにあたっての抱負が述べられました。



○ 情報機械システム工学科の学生が国立高等専門学校機構の理事長から表彰状を授与されました

令和4年11月5日（土）から6日（日）に開催されたパソコン甲子園2022にて、モバイル部門でベストアイデア賞を受賞した学生らが、国立高等専門学校全体の名誉を高めたとして、谷口理事長から表彰状を授与されました。

○ 祝！ DCON2023にて本校出場チームが経済産業大臣賞・文部科学大臣賞を受賞！

令和5年4月28日（金）、29日（土）に開催された第4回全国高等専門学校ディープラーニングコンテスト（DCON2023）にて、本校から出場した ezaki-lab が経済産業大臣賞の受賞および企業評価額3億で第2位の表彰を、Shiraishi-Lab が文部科学大臣賞の受賞および企業評価額1億2千万と評価されました。DCON2023は、高等専門学校生が日頃培った「ものづくり技術」と「ディープラーニング」を活用した作品を製作し、その作品によって生み出される「事業性」を企業評価額で競うコンテストです。



○ Abu Dhabi Maritime Academy が本校を訪問しました

令和5年4月19日（水）、Abu Dhabi Maritime Academy（アラブ首長国連邦）の関係者が本校を訪問しました。

今回の訪問は、国境を越えた海事分野における教育と研究の促進を目的としたものとなります。校長らとの面談の後、商船学科が保有する実験・実習設備、練習船鳥羽丸を視察しました。



○ 本科1年生の授業にて、鳥羽市防災危機管理室による防災講座を行いました

この度、本科1年生の授業「一般基礎教育1」にて、鳥羽市の岡田防災危機管理室長による「鳥羽商船高等専門学校で想定される災害について」というテーマで、防災講座を行っていただきました。

防災講座では、鳥羽商船高専における南海トラフ地震と津波の影響や、大雨や台風の際の洪水・土砂災害、日頃の防災対策について、学校周辺のハザードマップをもとに非常に分かりやすくご説明をしていただきました。



質疑応答では、学生や教職員から「防災バッグには何を入れたらいいのか」や「乗船中に津波警報が出たらどうすればいいのか」、「とりあえず安全なところに避難した後はどう行動したらいいのか」など多くの質問があり、学生、教職員ともに日々の防災対策を考える良い機会となりました。

【 商船学科航海コース 齊心俊憲 記 】

○ 令和4年度は、文部科学省のデジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業による整備の充実と教育訓練への現場投入が完了し、操船シミュレータに我が国有数の輻輳海域である伊勢湾の船舶位置情報をリアルタイムに画面表示させ、練習船鳥羽丸周りの情報がデジタル化され、シミュレータ上でデジタルツインとして再現できるなど、より実践的で質の高い操船教育訓練が実現できるようになりました。

また、AIS送受信機能を持たせた小型実習船『あけぼの』の代船を建造しました。

機関システムにおいても、遠隔監視可能な内燃機関発電システムを学生寮（あかつき寮A,B棟）脇に設置しました。発電機の安定稼働を遠隔から監視、挙動解析データの自動収集などが可能です。

一方では、海象データ分析・人工知能構築クラウドプラットフォームを構想し、大量データの蓄積が可能で高速処理が可能なAI実装用計算機システムを導入しました。

海事、物流、情報、電気電子、機械といった領域とその融合分野を含めて、幅広い学識とスキルをもつ人材が求められています。

海事の人材育成にあっては、一分野に特化した教育のみならず、多様な学理を教授し、実践的な教育訓練を通じた人材育成が効果的に実践されており、その成果は多くの先達の方々の活躍に示されています。

本校の教育においても、船社や産業界の方々を積極的に本校に迎えての授業や実習、講演など、活発な取り組みが進められています。

【 校長 和泉 充 記 】



鳥羽商船高専同窓会だより

○ 令和5年度鳥羽商船同窓会総会開催



盛夏の候お見舞い申し上げます。

鳥羽商船同窓会総会が6月17日（土）皇居前の外国人記者クラブにおいて同窓生58名、来賓4名の皆様が出席され盛大に開催されました。当日は梅雨の中休みで蒸し暑い一日でしたが、コロナが第5類に移行され久しぶりの楽し



い一日でした。

我が鳥羽商船同窓会総会は毎年、東京、名古屋、大阪、鳥羽と順繰りで開催しています。以前は鳥羽のみで開催されていましたが、総会を4年に一回の支部持ち回りで開催することにより、支部の活性化と新風を吹き込む目的で継続しています。

総会当日、菅沼会長は急な体調不良で欠席いたしました。会則に則り、当日の理事会は加塚副会長、総会には田中副会長が会長代理として理事会、総会を無事終了しました。

今年は役員改選の年でしたが会長の立候補者が現菅沼会長一人であったため、理事会満場一致で菅沼延之（S48N）氏が3期目の再選で会長に選ばれました。

この場に菅沼会長がいなかったのは残念ですが一日も早い復帰を祈念いたします。

理事会で承認された審議事項は総会で皆様に報告されました。

来賓は、攻玉社同窓会から田村事務局長、森監事。全船協から広重会長。そして商船高専5校の新練習船建造にあたり、多大なご支援を賜った赤池誠章（あかいけ まさあき）参議院議員（比例全国区選出）の出席をいただき、皆様からご祝辞をいただきました。

懇親会では東日本支部のお世話でピアノ、フルート、ウッドベースの生演奏の中、昔話に華を咲かせました。終盤には、生伴奏で船歌、校歌を歌いました。

今年の前川製作所に就職した若い二人が参加してくれました。今年制御情報工学科を卒業した西山さんと昨年商船学科機関コースを卒業した川口さんです。

西山さんは小学5年生から「故郷の海を愛する会」のイベントにお母さん、妹と共に参加し、妹も商船学科航海コース3年に在学中です。西山一家は我々に負けない商船家族です。昨今、同窓会は若い人たちの参加が少なく苦慮しています。

来年の総会は、名古屋支部担当で名古屋にて開催されます。たくさんの参加を期待しています。

○ 令和7年には母校創基150周年、新鳥羽丸就航、鳥羽商船同窓会設立100周年と慶事を控えています。卒業生の皆様にはぜひともご協力をお願いいたします。

【同窓会事務局長 江崎隆夫】

鳥羽商船同窓会ホームページ内で【会員の投稿】を掲載しております

是非ご覧ください

鳥羽商船同窓会ホームページはこちらです

<http://tobacmtdousokai.sakura.ne.jp/>



同窓会 HP QRコード

広島商船高等専門学校

○ 卒業証書・修了証書授与式を挙

3月3日（金）に電子制御工学科・流通情報工学科卒業式、産業システム工学専攻修了式を挙

行しました。新型コロナウイルス感染症対策により一部日程を短縮しての実施となりましたが、在校生有志が司会や写真撮影など、式の運営の一部を担う心温まる式となりました。

代表学生からは「この学校で学んだことを誇りに思い、社会に大きく貢献できる人間になることを目指して、卒業生一同今後とも精進してまいります。」と決意の答辞がありました。

電子制御工学科 39 名、流通情報工学科 41 名、産業システム工学専攻 3 名の学生たちは保護者・教職員に見送られ、本校を巣立っていきました。



○ 永年勤続者表彰式を開催

3月13日（月）、退職者の永年勤続表彰式を開催しました。

本年度は、吉田 哲哉教授が永年の勤務を経て、退職を迎えられました。

河口校長から表彰状と記念品が贈呈され、祝辞がありました。

○ 次世代海洋人材育成・高専60周年記念事業 広島みなとフェスタに参加

3月19日（日）に広島市で行われた「広島みなとフェスタ」に参加し、本校練習船広島丸の見学やクイズラリーを行いました。天候にも恵まれ、非常に多くの方に参加いただくことができました。



○ 高専制度創設 60 周年記念植樹を実施

電子制御工学科、流通情報工学科の卒業式と同日、本校第二体育館横の広場にて、植樹式を行いました。

本植樹式は、高専制度創設 60 周年を節目として、未来に向けて高専がますます成長することを祈念した「高専の森」事業の一環として行うものです。

植樹式は天気にも恵まれ、河口校長の挨拶の後、大崎上島町長・高田幸典氏、校友会会長・望月正信氏、奨学後援会会長・宇郷修三氏、本校教職員、学生会長による植樹および記念撮影が行われました。今回植樹したレモンは、大崎上島町の特産品となっています。

○ 令和 4 年度外部評価委員会を実施

3月24日（金）、学外の有識者を招いて外部評価委員会を実施しました。

本校の自己評価書に基づき、教育・研究・広報活動等について説明があり、現在の取組状況及び得られた成果等について報告しました。

その後、評価委員による質疑応答が行われ、委員会の最後に、河口校長から評価委員への謝辞がありました。

○ 入学式・入寮式を挙行

4月9日(日)、爽やかな春の陽気の下、商船学科43名、電子制御工学科44名、流通情報工学科42名、編入学生2名、留学生1名、専攻科産業システム工学専攻6名が入学しました。

河口校長からは「有意義で実りある学生生活を送るための3つの要望」という式辞があり、流通情報工学科 近藤さんが新入生総代として「校則を守り、学生としての本分を尽くして、社会に有為な人物となるよう努力することを誓います」と宣誓しました。また、来賓の衆議院議員 寺田 稔氏・大崎上島町長 高田 幸典氏の祝辞に引き続き、石川学生会長の「広島商船でたくさんの思い出を一緒に作っていきましょう」という歓迎の挨拶がありました。



また、入学式の前日に若潮寮入寮式を実施し、令和5年度は102名の1年生が入寮しました。

夕方より寮生会の先輩と共に食事、入浴等の案内を受け、その後、寮の教員から生活面における諸注意を受け、寮生活をスタートしました。

○ 新入生オリエンテーションを実施

4月10日(月)～4月12日(水)にかけて、国立山口徳地青少年自然の家で新入生オリエンテーションを実施しました。

昨年度同様、学生会役員並びにクラブ及び同好会の代表者からなる、ピアサポートの上級生が同行することになりました。これは、起居を共にする研修のなかで、学生が主体となって、新入生のサポートを行うことを目的としています。

徳地アドベンチャー教育プログラム(TAP)やオリエンテーリング、学生交流イベントを通し、新入生同士及び新入生と上級生や教職員の人間関係を深めることができました。

○ 大崎上島中学校研修を実施

4月21日(金)大崎上島中学校の1年生30名の研修を受け入れました。研修では、操船シミュレーター体験や、技術教育センター棟を見学してもらいました。

参加してくれた生徒からは「楽しかったので、またオープンスクールにも参加したい」「将来は広島商船高等専門学校 학생になりたい」といった感想がありました。



○ 前期クラスマッチ開催

5月10日(水)に令和5年度前期クラスマ

ッチを開催いたしました。

当日は天候に恵まれ、体育局の学生主導のもと、学生たちは各種目において白熱した試合を繰り広げました。学年の枠を超えての行事ということもあり、リフレッシュできる良い機会になりました。

○ 学生寮防災訓練を実施

5月23日(火)、学生寮防災訓練を実施しました。避難指示の発出から、寮のグラウンドに避難を行い、寮生会と担当寮生により整列、点呼を実施し、速やかな避難が実施できました。その後、大崎上島消防署職員の方から消火器の使用法の説明を受け、担当の寮生会役員が訓練用の消火器を用いた消火訓練を行いました。

最後に、消防署の職員の方からの講評をいただき、今年度の避難訓練を無事終えることができました。



○ 中速4サイクルディーゼル機関が「先達の功績」として認定

5月26日(金)、本校の中速4サイクルディーゼル機関(立形単動3気筒無気噴油式水冷機関)が「マリンエンジニアリングの航跡～未来へ続く先達の功績～」第3号として認定されました。

この事業は、海事産業の基盤となる船用工業分野における歴史的な転換点が連なる「航跡」をたどり、先人の努力・成した「功績」を認定することで、未来を担う技術者だけではなく海事分野に関わる人すべてに、社会・経済的な背景とともに技術的なものの見方を伝えていくことを目的としています(日本マリンエンジニ

アリング学会HPより)。

東京で開催された認定式において、認定証の授与が行われました。



○ 叙位・叙勲伝達式を開催

6月14日(水)、叙位・叙勲伝達式を開催しました。

松島勇雄名誉教授が、4月11日(火)をもって従四位・瑞宝小綬章の叙位・叙勲を授与されましたので、謹んでお知らせいたします。

6月14日(水)、ご遺族にご来校いただき、河口校長から位記、勲記及び勲章の伝達が行われました。

【商船学科 小林 豪 記】

校 友 会

○ 総会報告

5月27日(土) ホテルグランヴィア広島に於いて、出席者47名にて総会を開催しました。

○ 合祀式

10月29日(日) 11時～

本年度はコロナ感染拡大防止のため、中止していた過去3年分の合祀式も一緒に執り行います。

○ ホームページ

ホームページが新しくなりました。

学校のホームページからアクセスできます。

広島商船高等専門学校 校友会

月水金 9:00~15:00

TEL 0846-65-3899

E-mail : koyukai@hiroshima-cmt.ac.jp

大島商船高等専門学校

令和5年4月から令和5年6月にかけて行われた主な式典、教育活動、地域連携活動などを中心に紹介します。

1. 式典・行事

○ 令和5年度入学式挙行

令和5年4月5日(水)、本校において、令和5年度入学式を挙行了しました。

今年度は、商船学科42名、電子機械工学科38名、情報工学科40名の合計120名が入学し、また、専攻科電子・情報システム工学専攻に12名が入学しました。

更に、電子機械工学科の第3学年に1名、情報工学科の第3学年に1名、留学生が編入学しました。

古莊雅生校長は、新入生に対して「人と人が接する沢山の機会にも思いやりが必要です。お互い恥ずかしがらずにまずは挨拶を交わし、言葉を交わしてください。」と話し、式辞としました。

続いて本科及び専攻科の代表学生が入学の宣誓を行いました。新入生はこれから始まる高専生活に期待を膨らませている様子でした。



校長式辞

○ 令和5年度奨学後援会及び体育文化後援会通常総会開催並びに感謝状贈呈式

令和5年6月24日(土)、令和5年度奨学後援会及び体育文化後援会通常総会を開催し

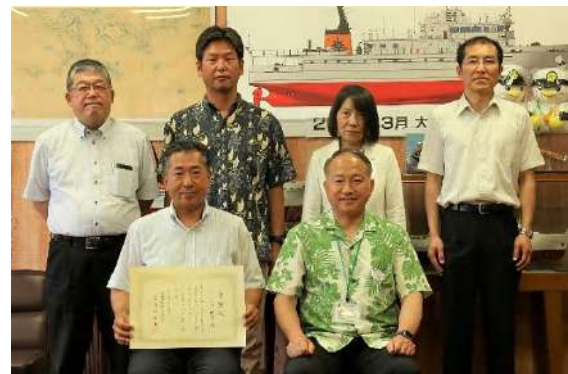
ました。令和2・3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により書面審議、昨年度は、役員・教職員は本校にて、会員はオンラインにて出席する形式での開催、今年度は、対面・オンラインのハイブリットでの開催となりました。

総会では、理事会にて選出された会長・副会長・理事・監事が承認され、新会長が就任されました。

続いて、昨年度の決算報告・今年度の予算案及び規則改正案についての審議を行い、すべての議事において承認され、最後に校長や主事等から学校の近況報告を行いました。

また、総会の終了後に感謝状贈呈式を執り行い、平成29年度から奨学後援会理事、令和4年度から奨学後援会長として尽力された、石津則彦様に感謝状を贈呈しました。

贈呈式では、古莊校長からご尽力に対する謝辞が述べられました。



(後列 左から) 石原総務主事 幸田寮務主事
石田学生主事 藤井教務主事
(前列左から) 石津前奨学後援会長 古莊校長

2. 教育活動

○ 商船高専生のための仕事研究セミナーへの参加

令和5年5月27日(土)に、弓削商船高等専門学校(愛媛県)において、瀬戸内3商船高専の商船学科学生を対象にした「商船高

専生のための仕事研究セミナー」が開催されました。

本校からは商船学科3年生(11名)、4年生(36名)、5年生(1名)、合計48名が参加しました。

会場となった弓削商船高専(第一体育館)には、午前と午後合わせて80社を超える出展があり、海運会社のみならず船舶管理会社や機械メーカーなど、商船高専卒業生の就職先として採用実績のある企業が多数来場しており、学生も各社ブースにて真剣に耳を傾ける等、有意義に時間を過ごすことができました。

3. 地域連携活動、公開講座など

○ サッカー部がブラインドサッカー公式戦にボランティア参加

令和5年5月14日(日)周防大島町陸上競技場にて、ブラインドサッカーの浸透を図ることを目的とする「ブラインドサッカー地域リーグ2023」が山口県で初めて開催され、本校サッカー部が補助員としてボランティア参加し、大会運営のお手伝いをしました。

今回は山口県で初の公式戦開催となりましたが、その背景には中国・四国地方で初めてブラインドサッカー用のサイドフェンス、ゴールマウスを準備できたことがあり、サイドフェンスを常時使用して練習できる場所は少なく常設は全国でも東京都と兵庫県の2か所のみです。

今後もブラインドサッカー公式戦が開催されることから、本校サッカー部もできるかぎり協力してブラインドサッカーの普及と発展に協力していく予定です。

昨年10月には「2022全日本知的障害者サッカー連盟 中国・四国地区トレセン大会」に強化試合の対戦相手として参加しました。

今後も様々な分野のサッカーと関わり選手(学生)の意識の向上を図ろうと考えています。

○ 本校学生が山口県警サイバー防犯ボランティアに委嘱

令和5年6月28日(水)、本校情報工学科3年の学生が、「大島商船高専サイバー犯罪抑

止隊」の代表として、山口県警察本部から、「山口県警サイバー防犯ボランティア」に委嘱されました。

「山口県警サイバー防犯ボランティア」とは、インターネット上における自主的な防犯ボランティア活動を行う団体である「サイバー防犯ボランティア」を山口県警が委嘱し、安全で安心なサイバー空間の実現に向けて、一緒に活動する制度です。

「大島商船高専サイバー犯罪抑止隊」は、今後、インターネットを利用した犯罪被害防止のための教育活動、防犯の広報啓発活動、サイバーパトロール等を、山口県警及び柳井警察署と連携し行っていく予定です。

4. 学校PR活動、クラブ活動の表彰など

○ DCON2023 で本校学生が最優秀賞を受賞

第4回全国高等専門学校ディーブラーニングコンテスト2023において北風裕教授の指導する研究学生が、最優秀賞、ウエスタンデジタル賞、NECソリューションイノベータ賞を受賞しました。令和5年4月28日(金)、29日(土)に第4回全国高等専門学校ディーブラーニングコンテスト2023(通称:DCON2023)が開催されました。

ディーブラーニングコンテストは、高等専門学校の学生が日頃培った「ものづくりの技術」と「ディーブラーニング」を活用した作品を制作し、その作品によって生み出される「事業性」を企業評価額で競うコンテストです。

○ 本校学生が第148回日本航海学会フレッシュマン講演奨励賞を受賞

令和5年6月3日(土)、神戸大学海事科学研究科で行われた第148回日本航海学会講演会において、本校専攻科海洋交通システム学専攻2年の学生が「操船シミュレータ訓練・実験におけるコミュニケーションデータの分析と活用-コミュニケーション評価の試行-」と題し、研究成果を発表し、フレッシュマン講演奨励賞を受賞しました。

フレッシュマン講演奨励賞は、発表構成や

スライド、そして話し方などを審査され、最も優秀であった若手研究者に贈られる賞です。

○ DCON2023 受賞チームが周防大島町長を表敬訪問

令和5年5月29日(月)、「第4回全国高等専門学校ディープラーニングコンテスト」(DCON2023)で最優秀賞を受賞した大島商船高専チームに所属する、専攻科電子・情報システム工学専攻2年の学生2名、情報工学科5年の学生1名、電子機械工学科5年の学生1名、情報工学科4年の学生1名が、受賞の報告のため、藤本浄孝周防大島町長を表敬訪問しました。

学生らは作品の説明と複数の賞を受賞したことを報告し、藤本町長からはAIとビジネスを活用した問題解決への期待のお言葉をいただきました。

○ 令和5年度第1回オープンキャンパスを開催

令和5年6月3日(土)、本校にて第1回オープンキャンパスを開催しました。

山口県内を中心に広島県、福岡県等から206名(うち中学生96名)の方にご参加いただきました。今回はフリー見学とし、興味のある学科の研究室や各施設を自由に見学していただく形式としました。

また今年3月に竣工した新大島丸の体験航海も行われ、約100名の方が参加されました。天候にも恵まれ、乗組員と学生のガイドのもと30分程度の航海を体験していただきました。



研究室見学



大島丸体験航海

◎おわりに

本年度が始まり、コロナ以前に実施していた各種行事やイベントが対面で行われる形で再開されてきました。

さらに、オープンキャンパスでは新大島丸の体験航海も実施されました。7月以降には高専大会やオープンキャンパスなどの各種イベントを通常通り実施する予定です。

それでは、皆様におかれましても、健やかに過ごしていただけますようお願いいたします。

【商船学科 渡邊 武 記】

小松会 だより

○「大晃小松会」の開催

2023年4月28日に大晃機械工業株式会社国際研修センターにおいて「大晃小松会」が開催されました。

本懇親会は地元船用機械メーカーである大晃機械工業株式会社に、多くの卒業生が活躍していることから、社内での懇親が図られているものになります。今回の懇親会では新入社員からベテラン社員まで11名のOBが参加しました。また、ゲストして旧知の仲の教職員を招き、在校時の思い出話で大変盛り上がりました。大島商船高専同窓会では今後とも地域支部単位での活動のほか、企業単位での活動についても盛り上げてもらいたいと考えております。【同窓会理事:山口伸弥】



弓削商船高等専門学校

○ 株式会社NTTドコモと練習船『弓削丸』及び実習船『はまかぜ』の災害支援利用推進に関する連携協定を締結

令和5年3月10日（金）、本校は株式会社NTTドコモ四国支社と、「練習船『弓削丸』及び実習船『はまかぜ』の災害支援利用推進に関する連携協定」を締結しました。

この協定により、両者が保有する技術、ノウハウ、サービス等を相互に連携し利活用することで、本校が保有する練習船『弓削丸』及び実習船『はまかぜ』を活用した災害支援の推進が期待されます。



○ 令和4年度電子機械工学科・情報工学科卒業式及び専攻科(生産システム工学専攻)修了式を挙行

令和5年3月11日（土）、令和4年度弓削商船高等専門学校電子機械工学科・情報工学科卒業式及び専攻科（生産システム工学専攻）修了式を挙行し、電子機械工学科卒業生42名、情報工学科卒業生37名及び専攻科(生産システム工学専攻)修了生12名に卒業証書・修了証書が授与されました。

石田校長から「本校で共に過ごした同級生はこれからもずっと良き友人となるはずで、困ったときに頼りになるのは、それまでに築き上げてきた人的ネットワークです。こ

れからも、是非大切にしてください。また、皆さんの成長を見守り支えてこられた保護者への感謝を忘れないください。そして、みなさんの成長を暖かく支えてくれた後援会や同窓会、企業の方々、そして何より地域の方々への感謝も忘れないください」と式辞が述べられました。

続いて、在校生総代の電子機械工学科4年上野智貴さんが送辞を述べた後、卒業生総代の情報工学科村上ヒカリさんからは、「これからもたくさんの困難に出会うことがあると思いますが、そのような時は学校生活で得た経験をもとに、前向きに乗り越えていきたいと思っています。さらに、これまで、支えてくださった社会に恩返しができるよう、尽力していく所存です」と力強く答辞が述べられました。

卒業生・修了生たちは弓削商船高等専門学校での思い出を胸に、それぞれの夢を叶えるための第一歩を力強く踏み出しました。



○ 令和5年度入学式を挙

令和5年4月6日(木)、令和5年度弓削商船高等専門学校入学式を挙行し、今年度は本科生131名、留学生1名、専攻科生12名の計144名の学生が入学しました。

式ではまず、入学許可が行われ、本科入学生及び専攻科入学生による入学宣誓がありました。その後、石田校長から「日々の学校生活においては、寮生活もさることながら、課外活動が人間力形成にとって非常に有用です。そのためにも、クラブ活動や各種行事に積極的に参加し、大いに楽しみながら、学科や学年にとらわれずに多くの友人を作ってください。高専時代にできた友人は、一生の宝物となるはずですよ。そして充実した高専生活を送ってください」と式辞がありました。

続いて、在校生を代表して、商船学科4年の藤田絢音さんが「新型コロナウイルスの流行による行動制限も緩和され、本校でも様々な行事の開催を予定しています。行事に参加して仲間との思い出を作ったり、定期試験や資格試験に打ち込んだりして、時間を大切に過ごして欲しいと思います」と歓迎の言葉を述べた後、入学生を代表して電子機械工学科峯松輝さんが「高専生活が始まると、大きな壁にぶつかることもあるかと思いますが。その時は、中学校で学んだ「視点を変えて行動すること」を生かして、何事にも前向きに、仲間と協力して乗り越えていきたいと思えます。今後のご指導のほどよろしく願いいたします」と力強い答辞を述べました。

式に出席した保護者に見守られながら、新しい制服に身を包んだ入学生の弓削商船高専での新たな生活が始まりました。



○ 新入生対象メンタルヘルス研修を実施

令和5年4月に計3回の新入生対象メンタルヘルス研修を実施し、新1年生133名が参加しました。

本研修は、対人関係の重要性、アサーティブ・コミュニケーション、ストレスマネジメントについて学ぶことを目的として実施しました。

講師は、本校カウンセラーの林祐太郎先生・石丸雅貴先生で、「適切な対人関係を理解すること」、「自分と他者のどちらも大切にす態度やアサーションを学び実践すること」、「ストレスについて知り、コーピングを身に付けること」などについて、具体的な実践方法を踏まえた研修でした。

研修を受けた学生からは「今まであまり他人に相談しなかったが、1人で抱えることはやめようと思った」「人とのつながりを大切にしようと思った」「ヤマアラシのジレンマでの友達との距離のとりかたがよく分かった」「人間関係づくりについての説明は、とても分かりやすかった」などの感想が聞かれました。



○ 株式会社NTTドコモと実習船「はまかぜ」を利用した資材積載訓練を実施

令和5年5月18日（木）、本校棧橋において、株式会社NTTドコモ（以下ドコモ）と実習船「はまかぜ」を利用した資材積載訓練を実施しました。

この訓練は昨年度締結した【練習船「弓削丸」及び実習船「はまかぜ」の災害支援利用推進に関する連携協定】に基づき、定期的を実施するもので、通信資機材輸送を想定した各種訓練を行うことにより、災害発生時における相互の円滑な連携を図ることを目的としています。

実際に資機材を積載し船を動かすことで、新たな気づきを得ることができました。また、本校とドコモの担当者間でコミュニケーションが生まれるなど、有意義な訓練となりました。



○ 商船高専生のための仕事研究セミナー実施

令和5年5月27日（土）、第一体育館において商船高専生のための仕事研究セミナーを開催しました。

本校商船学科の1～5年生、広島商船及び大

島商船の商船学科4・5年生が参加し、86社の企業から説明を受けました。

このセミナーは、学生の進路決定に必要な様々な情報と多様化する仕事に対する確かな選択ができる素地を育む機会を提供することを目的としています。

参加した学生たちは、積極的な質問やメモを取るなど説明に熱心に耳を傾けていました。



【練習船弓削丸 森瑛太郎 記】

弓削商船高専同窓会

■ 令和5年度松山支部懇親会を開催

令和5年4月1日（土）、ANAクラウンプラザホテルにおいて、令和5年度松山支部懇親会が開催され、23名の同窓生が集いました。

懇親会では、冒頭に創基120周年記念事業で製作した「思い出の弓削商船船歌集」を観賞し、古川松山支部長からの挨拶・支部事業報告が行われました。

続いて柏木同窓会長からの挨拶の後、弓削商船高専の田房事務局長から学校の近況、弓削丸代船建造の様子が報告されました。

その後、鈴木邦裕氏の乾杯の発声により開宴し、和気藹々とした雰囲気の中、各テーブルでは同窓生が昔話に花を咲かせつつ、交流を深め、大いに盛り上がりました。

なお本会は、通常の感染対策を施すと共に、会場にできる限りのスペースを設け、テーブル

席の人数制限を行うなどホテルからの協力体制の元で挙げております。



集合写真



乾杯！

■ 令和 5 年度弓削商船高専同窓会支部長会議・総会を開催

令和 5 年 6 月 24 日（土）グリーンヒルホテル尾道ハーバースペースにおいて、令和 5 年度弓削商船高専同窓会支部長会議と総会が開催されました。

支部長会議には会長・各支部長他が出席し、総会の議事の確認、各支部における令和 4 年度の活動報告と令和 5 年度の計画などが報告されました。

総会は令和元年以降の対面開催となり、式次第の通り開催地支部長の挨拶、会長挨拶の後、6 つの議案について議事が諮られ、全ての議案において承認されました。

報告では、令和 6 年 3 月代船弓削丸の竣工を控えており、10 月の進水式、3 月のお披露目会の案内が行われました。

最後に、次年度総会の担当である弓削支部長の挨拶で総会が締められました。

1. 開会の挨拶（尾道支部長）
2. 会長挨拶
3. 議事
 - (1) 令和 4 年度行事報告
 - (2) 令和 4 年度会費納入状況と分担金報告
 - (3) 令和 4 年度会計報告
 - (4) 令和 5 年度行事計画
 - (5) 令和 5 年度予算案
 - (6) 役員と会則の改正
4. 報告事項
 - (1) 弓削丸進水式
 - (2) 弓削丸お披露目会
 - (3) しらすな 64 号原稿依頼
5. 閉会の言葉（次年度総会担当）



総会



懇親会

■ 令和 5 年度総会ゴルフコンペを開催

令和 5 年 6 月 25 日（日）、京覧カントリークラブにおいて、令和 5 年度総会ゴルフコンペが 4 年ぶりに開催されました。

梅雨時期のコンペで、曇り空での実施となり

ましたが、終始雨にあたることなくプレーをすることができました。

コンペは 24 名の同窓生や白砂会メンバーご参加いただき、西コースを 8:22 から 6 組が順にスタートし、午後からは東コースへと進みました。皆さまのおかげをもちまして、参加者全員が無事終えることができました。

表彰式も同カントリークラブで行い、栄えある優勝者には吉岡様が輝きました。

以下、3 位までに入賞した方のみご紹介いたします。

	氏名	ネット
優勝	吉岡 繁 (N69)	71.4
準優勝	赤木 堅二 (E37)	72.0
第 3 位	山本 統朗 (E31)	72.6



集合写真



表彰式

■N70 高尾幸徳氏の功績が日本海事新聞に掲載

令和 5 年 5 月に伊勢三河湾水先区水先人会の会長に就任された N70 高尾幸徳氏の記事が、令和 5 年 7 月 10 日 (月) 日本海事新聞の記事に掲載されました。

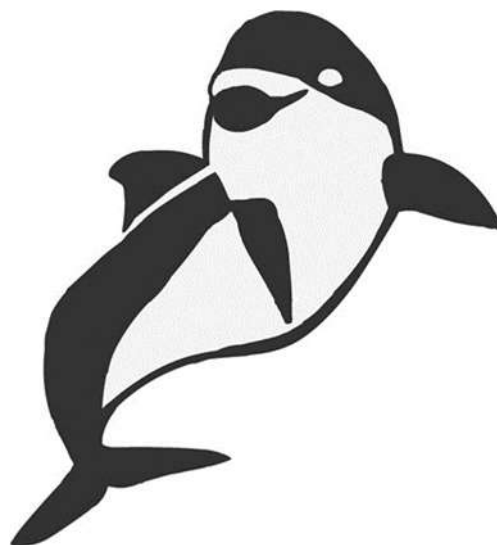
次の QR コードでアクセス下さい。



■ 同窓会事務局

電話(学校代表) 0897-77-4606
FAX 0897-77-4692
メール info@yuge-kosen.com

同窓会事務担当 田房 友典 (I2期)



海技教育機構

○ 乗船実習

令和5年5月8日、新型コロナウイルス感染症が、感染症法上の分類で5類感染症に位置付けされたことに伴い、政府の「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」（令和2年11月19日新型コロナウイルス感染症対策本部決定）が廃止されました。

練習船実習においても、寄港地上陸を含め、コロナ前の環境を取り戻しつつあります。

一方で、新型コロナウイルスの感染力が非常に高いことに変化はなく、発症した場合の療養期間も設けられていることから、練習船の運航や実習に支障をきたす可能性があるため、JMETSでは、これからも自主的な感染対策は必要であると考えております。

引き続き、感染予防対策へのご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

さて、令和5年4月から6月までの間、商船高等専門学校6年生（第52期生）が青雲丸において乗船訓練を行いました。6月後半の短い休息期間を経た7月1日、航海科76名、機関科83名が最後の乗船実習として銀河丸に乗船いたしました。銀河丸では、遠洋航海を含む3か月の乗船実習を行ってまいります。



高専生操船実習(船橋)

銀河丸の外地寄港は、2019年のシンガポール寄港以来コロナ禍で中断を余儀なくされて

おり、実に4年ぶりとなります。

遠洋航海スケジュールは、8月10日に東京港を出港し、8月23日にシンガポール港に寄港。9月7日に大阪港に戻るまでの29日間の航海を予定しております。



備讃瀬戸東航路(瀬戸大橋)



主機ピストン抜き実習



ピストン抜き実習(集合写真)

令和5年7月から9月までの乗船実習の予定は次のとおりです

○ 日本丸

- ・海上技術短期大学校（清水、宮古）

7/1 乗船（東京）、7/4 東京発、7/14~18 室蘭、7/24~29 函館、8/4~9 姫川、8/17~21 敦賀、8/28~9/1 門司、9/7 東京入港、9/10 下船

○ 海王丸

- ・東京海洋大学1年（A組）

7/21 乗船（東京）、7/24 東京発、7/31~8/4 清水、8/10~14 大阪、8/19 神戸入港、8/20 下船

- ・神戸大学3年

8/22 乗船（神戸）、8/24 神戸発、8/31~9/4 清水、9/9~13 横浜、9/20 東京入港、9/21 下船

○ 大成丸

- ・海上技術学校乗船実習科

7/1 乗船（東京）、7/3 東京発、7/10~14 神戸、7/22~26 神戸、8/5~9 広島、8/17~21 細島、8/28~9/2 神戸、9/9 神戸入港、9/10 下船

○ 銀河丸

- ・商船高等専門学校（航海科、機関科）6年
（航海科：富山19名、鳥羽13名、大島15名、広島14名、弓削15名）
（機関科：富山19名、鳥羽14名、大島14名、広島22名、弓削14名）

- ・海技大学校専修（航海科、機関科）2年

7/1 乗船（神戸）、7/5 神戸発、7/14~18 大阪、7/27~8/1 神戸、8/7~10 東京（遠洋航海）、8/23~28 シンガポール、9/8 大阪入港、9/10 下船

○ 青雲丸

- ・大学（航海科、機関科）5年
- ・海上技術短期大学校（小樽、清水）

7/1 乗船（東京）、7/3 東京発、7/10~14 大阪、7/19~24 神戸、8/31~4 大阪、8/10~14 名古屋、

8/19~21 神戸、8/29~9/2 大阪、9/9 神戸着、9/10 下船

- ・東京海洋大学1年（B組）

7/21 乗船~8/20 下船

○ 海事広報活動

例年実施しております、各寄港地における一般公開や海洋教室、シップスクールなどのイベントにつきましては、新型コロナウイルス感染症の5類移行を受けて、順次再開する方向で準備を進めております。

JMETSのHP等で情報発信を行っておりますので、是非ご覧ください。

○ 賛助会員制度のご案内

持続的なご支援を賜るために賛助会員制度を運用しております。

個人賛助会員 1口 5千円

団体賛助会員 1口 5万円

※ 海技教育機構賛助会費は、一般寄附金として特定公益増進法人への寄附にあたり、所得税・法人税の優遇措置の対象となります。

賛助会員様にはJMETSが実施する行事の情報提供や、JMETSオリジナルグッズ送付などの特典をご用意しております。

画像は新規ご入会の会員様へのプレゼントセットです。（トートバッグは4種類の中からお選びいただけます。）ご継続いただく会員様へは毎年新たなプレゼントグッズをご用意しております。

WEB上のお申込みフォームから、直接お申込みいただくことができます。

JMETSの活動内容にご賛同いただき、賛助会員にご入会くださいますようお願い申し上げます。

賛助会員制度のご案内

<https://www.jmets.ac.jp/donation/o4qt2d00000002ey.html>



賛助会員 WEB お申込みフォーム



賛助会員制度のご案内



JMETS オリジナルグッズ

○ JMETS 公式グッズのご紹介

【練習船カレー】

JMETS の練習船では、航海初日をカレーで迎えます。食べやすく栄養価の高いカレーを食べて、大海原での訓練に備えます。練習船司厨長（料理長）監修の下、伝統ある「練習船の味」を忠実に再現した「JMETS 練習船カレー」が、株式会社ヤチヨから販売しています。

この練習船カレー売上金の一部は、株式会社ヤチヨから JMETS に監修料として還元され、海技教育の充実に充てられます。

品名：「JMETS 練習船カレー」

規格：レトルト食品 1食 200グラム

価格：500円＋消費税

販売者：株式会社ヤチヨ（本社 横須賀市）

ネット注文：<https://www.47club.jp/16M-000026poe/goods/detail/10107103/>



【御船印帳】

御船印は神社仏閣でもらえる「御朱印」の船バージョンのことで、全国各地の船会社や海洋博物館が独自の印を発行しています。この御船印を集める船旅が「御船印めぐり」です。

このプロジェクトは 2021 年に日本旅客船協会の公認事業としてスタートしました。集めた御船印の枚数によって認定される称号制度「御船印マスター」制度も実施しています。

JMETS では御船印めぐりプロジェクトとの公式コラボ船印帳を通信販売しています。ホワイトを基調としたカラーリングにコバルトブルーで「帆船・日本丸」を描いています。

また、御船印帳の売上の一部は事業協賛寄附金として、JMETS の船員教育支援に充てられます。

品名：「日本丸の壺」（別名「帆船・日本丸」）

価格：2,200円（税込）

サイズ：横 12cm×縦 18cm×厚さ 1.5cm

仕様：蛇腹式（最大 46 枚の御船印を貼付け可能）ビニールカバー付き

ご購入お申込みフォーム

<https://www.jmets.ac.jp/tsuuhan/tsuuhan.php>

御船印事務局公式ホームページ

<https://gosen-in.jp/>



ご船印帳申込みフォーム



御船印事務局公式ホームページ



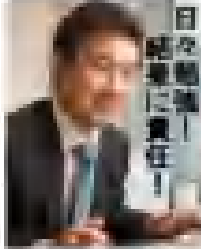
ご船印帳、練習船カレー

【企画調整部企画課 間島 良博】

参議院議員(比例代表 全国区)

赤池まさあき

～国づくり、地域づくりは、人づくりから～



日々勉強！
結果に責任！

海事振興に向け16項目を決議



広島県呉市においてタウンミーティングを四年ぶりに開催！

「国づくり、地域づくりは、人づくりから」を信条に、そして「日々勉強！結果に責任！」をモットーとして、活動を展開している参議院議員(比例代表全国区)赤池まさあきです。

去る六月三日、広島県呉市において、海事振興連盟(衛藤征士郎会長)の呉タウンミーティングが行われました。コロナ禍で延期が続いていた中、四年ぶりの開催でした。

出席した海事諸団体からは、現状を踏まえた要望を頂きました。それに対し、出席した国土交通省の担当部署から現状の取組みが説明され、出席した国会議員が意見を述べました。その結果、以下十六項目の決議を行いました。

〇〇〇の決議十六項目

- ① 脱炭素化推進のためのグリーン化経済移行費の活用実現。
 - ② 後期支援として、国際船舶の登録免許税特例や国際船舶の固定資産税の特例、軽油引取税の特例、倉庫等の割増償却・固定資産税・都市計画税の特例の海事関連税制の延長確保。
 - ③ 海洋教育と広域の充実強化。
 - ④ 税引海の日を七月二十日に固定化。
 - ⑤ コロナ補換回線として、旅客船に対する需要回復等の支援、船員交代の円滑化、ワタチン接種環境の継続、船内に格口抗ウイルス剤の配備を推進。
 - ⑥ 内航海運活性化として、船舶共有建造制度の維持・拡充を進め、代替建造の税制特例を確保、カボタージュ制度を堅持。
 - ⑦ 離島航路の維持・活性化のため、重油・軽油の激変緩和対策事業を含めた予算支援とともに、高速道路料金の引下げがフェリー事業に打撃を受けないように、離島空の均値がとれた料金施策の推進。
 - ⑧ 知床旅客船事故を踏まえ、安全対策の強化。
 - ⑨ 海賊対策として、日本船舶整備特別措置法の的確な運用等を継続。
 - ⑩ 造船業や海運業の国際競争力を確保策の推進。
 - ⑪ 経済安全保障の推進。
 - ⑫ 鋼材価格高騰の対応。
 - ⑬ 造船業の公正な競争環境の整備。
 - ⑭ 造船船業の人材確保・育成。
 - ⑮ 日本人船員の後継者の確保・育成。
 - ⑯ 呉阿賀マリノボリス地区のRORO船定期航路誘致や港域整備。
- それを踏まえて、政府の骨太の方針にも、海運・造船業同様に明記をすることになります。
- 今後、海事産業の発展のため、より一層の力を尽くしてまいります。

【国会事務所】
〒100-8962
東京都千代田区永田町2-1-1
参議院議員会館524号
TEL: 03-6550-0524
FAX: 03-6551-0524
HP: <https://www.akai.kobe>

【自由民主党 議員募集】
自民党では議員を募集しています。詳細は事務所まで！

赤池 誠家(あかいはら まさあき)
昭和三十六年山梨県生田生まれ。明治大学卒。松下政経塾出身。自動車整備士養成の専門学校校長を経て、衆議院議員に初当選。清和政策研究会に所属。平成二十五年の参院選比例代表(全国区)で国政復帰。国土交通委員、文部科学大臣政務官、文教科学委員長(三期)、内閣府副大臣を務め、現在、党政務調査会副会長、海事振興連盟常任幹事、海洋教育推進PT座長、参議院議員二期目。



参議院議員(比例代表 全国区)

赤池まさあき

～国づくり、地域づくりは、人づくりから～



日々勉強！
結果に責任！

海洋教育推進プロジェクトも呉で開催



(新原呉市日に対して、海洋教育推進プロジェクトの開催式)

海軍振興連盟呉支部とウヰンミーティング開催の前日、六月二日、呉市役所(新原芳明市長)において、私が座長を務める海洋教育推進プロジェクトを開催しました。

同プロジェクトは、私が呼びかけ人となり、海洋教育を推進しようとして平成二十八(二〇一六)年から産学連携で始めたもので、学習指導要領改訂、教科書への海軍産業等の記載充実、各地の教育委員会との意見交換等を進めてきました。目標は、海

洋国家である我が国において、全ての市町村での海洋教育の実施と強化です。

◎海軍教材の贈呈式

同プロジェクトでは、まず呉市の三十五ある小学校に対して、各海軍団体が作成した海洋教材一式を寄贈しました。折原呉市長からは、御礼の言葉とともに、私共に対し感謝状を賜りました。

◎国と関係 地方の取組み

次に、国の取組みとして、内閣府総合海洋政策本部の第四次海洋基本計画、文部科学省から発達段階に応じた各分野での取組み、国土交通省の取組みの説明を受けました。さらなる連携強化をお願いします。

そして、各海軍団体からの取組みを聞きました。ご参加頂きました海軍団体には御礼を申し上げます。

その上で、呉市教育委員会から呉市での取組みを聞きました。

そして、海軍関連の地元企業が導入したミニユニティスクールの推進、国と地方・地元企業が連携した奨学金の充実、中学生の職場体験受け入れ先の開拓等々を議論し

ました。

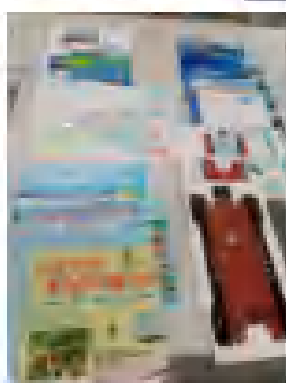
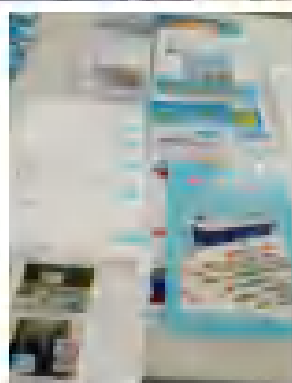
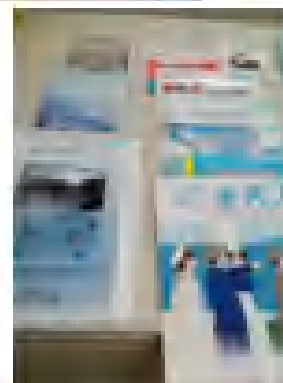
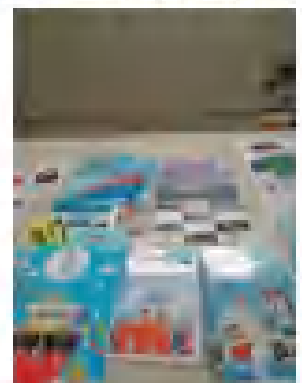
呉市は、日本有数の海軍産業都市であり、海洋教育面でも先進地です。呉市の海洋教育のさらなる充実、そして、その取組みを全国に広げていければと思います。引き続き、海洋教育の推進をより一層支援していきたいと思っております。

(赤池まさあき)



(海洋教育推進プロジェクトの様子)

その他、国政報告はこちらからご覧下さい。



横浜みなと博物館 企画展

「関東大震災100年 船と港から見た関東大震災」

会期：2023年8月26日(土)～11月5日(日)

休館日：月曜日(9月18日(月・祝)、10月9日(月・祝))は開館し、翌日休館

開館時間：10:00～17:00(最終入館16:30)

入館料：一般500円、65歳以上400円、

小・中・高校生200円

※本展は横浜みなと博物館の入館券でご見学できます。

※帆船日本丸との共通券(一般800円、65歳以上600円、小・中・高校生300円)で本展も御覧になれます。

※毎週土曜日は小・中・高校生は共通券が100円の特別料金になります。

※本展のみ見学できる入館券(一般：200円、小・中・高校生・65歳以上：100円)もごさいます。

交通：JR 根岸線、市営地下鉄ブルーライン 桜木町駅下車、またはみなとみらい線みなとみらい駅・馬車道駅下車 いずれも徒歩5分



みなとの博物館ネットワーク・フォーラム助成事業

助成：みなとの博物館ネットワーク・フォーラム、一般財団法人 山縣記念財団

後援：横浜市港湾局、(一社)横浜港振興協会、神奈川県博物館協会、神奈川新聞社、tvk(テレビ神奈川)

神奈川県博物館協会神奈川震災100年プロジェクト

帆船日本丸展帆

9月10日(日)、9月23日(土・祝)、10月9日(月・祝)、10月15日(日)、10月22日(日)、11月3日(金・祝)

横浜みなと博物館 〒220-0012 横浜市西区 みなとみらい2-1-1

[TEL 045-221-0280](tel:045-221-0280)

FAX 045-221-0277

<https://www.nippon-maru.or.jp/>

2023(令和5)年は、1923(大正12)年9月1日に発生した関東大震災から100年目の節目の年にあたります。

相模湾沖を震源としたM7.9の大地震は、京浜地方を中心とした広い範囲に非常に大きな被害をもたらしました。

関東大震災により横浜市街地、そして横浜港の施設は壊滅状態となりましたが、大きな被害を受けなかった船舶が、無線で震災発生を知らせ、被災者の救助活動を行いました。また、わずかに残った港の施設で支援物資の荷揚げが行われています。全国各地への避難民輸送、物資の輸送、海外からの支援物資なども船で運ばれ、被災地へ届けられました。陸地の影響を受けにくく大規模な輸送が可能な船舶による海上輸送は、震災復旧に大きな役割を果たしています。

その後も、1995(平成7)年の阪神淡路大震災、2011(平成23)年の東日本大震災をはじめとした、大規模災害の救助、復興にも船舶、港が活用され、2022(令和4)年には



大きな被害を受けた横浜港周辺（横浜みなと博物館）

海上輸送を活用した災害対応のための物流・人流ネットワーク、「命のみなとネットワーク」形成の取り組みが始まりました。

また、関東大震災は壊滅的な被害を受けた横浜港に変わり、その機能を神戸港や清水港など国内の主要港湾が受け持つことになったため、それらの港湾の性格や築港計画にも大きな変化をもたらしています。

本企画展では、関東大震災の復興に船、そして港が果たした役割と、関東大震災を期に大きく変わった横浜港をはじめとする各港の性格を具体的に紹介します。

関東大震災から100年という節目に、関東大震災を船・港の視点から考えることで、横浜港をはじめとした主要港湾に震災がどのような影響を与え、現在の防災対策にまでつながっていったのかを知っていただく機会とします。

小企画 関東大震災100年

船と港から見た 関東大震災

2023年 8月26日(土) - 11月5日(日)

休 日 月 曜 日 9月18日(月・祝)、10月9日(日・祝)は閉館し、お休みとなります。

開館時間 10:00～17:00 (最終入館16:30)

入 館 料 一般500円 65歳以上400円 小・中・高校生200円 (学割別入館券あり)

※ 学割は10月以降の開催期間に限り有効となります。

※ 学割は10月以降の開催期間に限り有効となります。

【会場】〒226-0001 神奈川県横浜市中区山下2-1-1 横浜みなと博物館

【協賛】みなと博物館ネットワークフォーラム、一般財団法人山崎記念財団

【後援】横浜商船協会、横浜商船協会、横浜商船協会、横浜商船協会、横浜商船協会

横浜みなと博物館
Yokohama Port Museum



雷撃により棒立ちとなって沈没する「ぶら志'る丸」

第49回 知られざる民間船舶の悲劇
戦時徴用船遭難の記録画展
 — 大久保一郎画伯遺作 —

令和5年**8月29日**(火)～**9月10日**(日)

午前10時～午後6時

【初日：午後1時開場 最終日：午後4時閉場】

入場無料

会場 **りゅーとびあ (新潟市民芸術文化会館)**
4階 ギャラリー

新潟県新潟市中央区一番堀通町3番地2 (白山公園内)

主催 **公益財団法人日本殉職船員顕彰会**

東京都千代田区麹町四丁目5番地 TEL 03-3234-0662

交通

【JR新潟駅から】萬代橋ライン (BRT) 青山方面行「市役所前」下車
 徒歩5分 (所要時間：新潟駅万代口より約20分)

【車】 関越自動車道/磐越自動車道「新潟中央I.C.」より約20分
 専用駐車場はありません。
 周辺駐車場をご利用いただくか公共交通機関をご利用ください。



本部・支部だより

- 2023/4/19 監事による会計監査を実施
- 2023/4/22 2023 年度第 1 回理事会を千代田区和泉橋区民館にて開催、広重康成会長をはじめ理事 11 名、監事 2 名の出席で審議が行われた
- 2023/5/18 「志公会（しこうかい）と語る夕べ」永岡桂子文部科学大臣、中西祐介先生へのご挨拶(広重)
- 2023/5/19 国土交通省 海事局 海技課 前田良平船員教育室長へご挨拶（広重・飯島）
- 2023/5/21 第 40 回 横浜港カッターレース（広重・加藤）
- 2023/5/22 参議院議員赤池誠章先生事務所にて面談（広重）
- 2023/5/24 "第 50 回戦没・殉職船員追悼式参加 神奈川県横須賀市 県立観音崎公園「戦没船員の碑」にて(広重・加藤・飯島) "
- 2023/5/30 第 34 回年次特別セミナー「衆議院議員 衛藤征士郎君の在職 45 周年を祝う会」東京プリンスホテルにて（広重）
- 2023/5/30 日本海難防止協会第 1 回通常理事会 海運ビルにて（広重）
- 2023/6/5 公益財団法人 海技教育財団 第 22 回奨学生選考委員会(海運クラブ会議室にて)（飯島）
- 2023/6/8 海技教育財団第 35 回理事会 海運ビル（広重）
- 2023/6/9 参議院議員 赤池誠章先生、衆議院議員 岸 信千代先生訪問陳情（広重・酒迎）
- 2023/6/10 "2023 年度通常総会は 6 月 10 日 14 時から日本教育会館会議室 703 号室にて開催され、第 1 号議案・報告事項の議題は全会一致で承認されました。
- 閉会は 15 時でした。なお、総会後の懇親会は新型コロナウイルス感染防止のため開催されませんでした。"
- 2023/6/17 鳥羽商船同窓会懇親会 外国人記者クラブにて
- 2023/6/17 参議院議員赤池誠章先生に帯同（広重・加藤・飯島）
- 2023/6/26 日本水先人会連合会第 1 回通常総会懇親会 ホテルルポール麴町にて（広重）
- 2023/6/26 國枝富山高専校長来会（広重・加藤）
- 2023/6/27 日本海難防止協会 総会・第 1 回臨時理事会 海運クラブにて（広重）
- 2023/6/28 日本殉職船員顕彰会臨時理事会（広重・加藤）
- 2023/6/28 衛藤征士郎先生 Early Bird Seminar（広重）
- 2023/6/30 日本船主協会通常総会・懇親パーティー 海運ビル（広重）
- 2023/7/17 第 58 回全国漕艇大会 大島商船高専にて（広重）
- 2023/7/20 赤池誠章先生参議院議員会館往訪 松岡秘書対応（広重）
- 2023/7/20 海の日 海事功労者祝賀会 鉄鋼会館（広重）
- 2023/7/27 国土交通省海事局 海谷厚志海事局長並びに前田教育室長へのご挨拶（広重・飯島）
- 2023/7/27 衛藤征士郎先生 Early Bird Seminar（広重）

賛助会員名簿 2023年4月現在

広島商船校友会	株式会社ハマテクノサービス
弓削商船高専同窓会	有限会社システムエンジニアリング
北斗会事務局	日本ガスライン株式会社
大島商船高専同窓会	名阪船舶株式会社
鳥羽商船同窓会	戸田汽船株式会社
株式会社コトラシステム	株式会社商船三井内航
北星海運株式会社	菅原汽船株式会社
山友汽船株式会社	神戸マリーン工業株式会社
株式会社B&Sエンタープライズ	株式会社マリントランスシステム
栗林商船株式会社	正栄汽船株式会社
名古屋メッキ工業株式会社	かもめプロペラ株式会社
八馬汽船株式会社	東興海運株式会社
大四マリン株式会社	鹿児島船舶株式会社
NSユナイテッド内航海運株式会社	摂予汽船株式会社
太洋産業貿易株式会社	株式会社NMDグループ
旭運輸株式会社	ダイハツディーゼル株式会社
上野トランステック株式会社	三陸運輸株式会社
株式会社 ウシオ	兵機海運株式会社
日本栄船株式会社	協同商船株式会社
宮城マリンサービス株式会社	日本油化工業株式会社

2023 年度会費納入者芳名帳

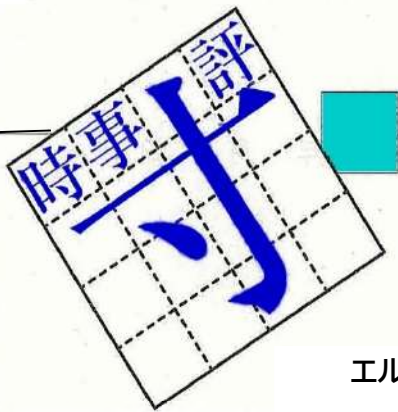
2023 年 7 月 31 日現在

2022年度分	光田 公德	中塚 達也	平木 恵介
個人入金	吉村 燿	朝日 健二	酒井 勇樹
橋之口 勉	竹嶋 琳香	綱島 毅	濱松 直也
早崎 弘泰	田中 咲楽	滝浦 文隆	佐々木 翔輝
塩田 優斗	平野 有輝	竹原 敏宏	漁野 智洋
水野 博之	進藤 弘和	栗原 誠	廣村 匡俊
脇坂 耕太郎	6月	橋口 靖生	濱田 祐司
2023年度分	共栄タンカー(株)	萩原 栄二	松下 薫
世話人入金	佐藤 好司	新田 真一	河本 優
5月	外谷 正彦	山本 真丈	中尾 拓弥
山友汽船(株)	石田健一郎	鈴木 直也	阿部 誠
望月 正信	浦田 建	寺西 尚平	梅田 尚宏
松林 祐馬	中野 寛士	迫間 利紀人	染矢 真行
北島 章市	岩城 音芽	山下 育孝	田川 寛大
川淵 仁	出光タンカー(株)	沖原 邦彦	渡邊 真史
大坪 鴻介	野間 虎三	片淵 敏之	早柏 隆太
仁井岡友康	瀬戸口義典	山岡 宣之	溝淵真太郎
高田 忍	有馬 功人	宇佐見航一	杉野 智
逢坂 武	中坂 勝史	徳山 公彦	宇都宮 直人
吉川 温己	山本 一成	福井 悟	田辺 光
永井 達朗	7月	伊賀 勇治	古田 輝
梶原 拓海	(株)商船三井	児玉 賢志	商船三井フェリー(株)
村上 航	山口 智彦	間島 崇夫	富山 幸弥
近藤 拓斗	田村 孝夫	金子 大輔	薄井 雄基
今城 冬哉	和田 雅人	大宅 理志	廣瀬 潤一
磯野 達也	藤井 仁	上井 博明	清水 洋平
工藤 善己	枝次 真治	百合野 剛	前田 龍弥

2023 年度準會員入会者芳名帳

2023年7月31日現在

大島商船高専	鳥羽商船高専	富山高専	広島商船高専	弓削商船高専
河谷 虎太郎	青柳 海月	井上 碧	浅田 拓登	長尾 亮佑
村尾 虹大	浜口 和也	中西 結愛	米澤 悠太	越智 昭仁
久積 寛大	谷本 剣悟	渡邊 華道	石川 千空	殿敷 幸大
酒井 美葵	中津 香乃	徳山 裕之	福本 愛音	小田 陽平
井上 陽路里	中谷 燈矢	奥村 竜太郎	金井 勢士	宗實 凌太郎
三井 琉生	渡邊 武	川合 煌世	益田 莉空	長谷川 晃一
岡田 壮史	齋藤 蓮也	本田 琉己	秋田 若葉	京谷 悠史
栗山 宗大	須磨 明德	脇田 小町	堤 勇翔	田丸 玄将
大田 絢貴	佐藤 悠珂	柳生 悠花	岡本 悠太郎	前田 昊之介
磯谷 駿佑	道願 由岳	長田 八重	川迫 洸貴	村越 夏輝
山見 優友	堤 俊士	植村 春城	住吉 慶一郎	吉島 翔大
長島 奏多	山本 雄大	谷口 健介	手島 陽輝	藤井 睦己
池田 文也	吉田 空	京谷 圭一郎	小林 和磨	鈴木 裕也
金谷 碧	森 遙花	本田 廉太郎	寺下 皓偲	田中 暖人
小松野 翔太	富川 恋凧	水島 未来	立石 賢登	谷 洋虎
水谷 一斗	落合 颯太	冨水 琉花	山口 七煌	二神 律希
坪根 悠	高久 裕太郎	杉本 成	小河原 慎ノ介	東海林 拓弥
鶴 颯真	北川 寛太	大森 清良	岩屋 匠	湯浅 奏音
河津 美姫菜	井上 杏樹	坪西 陽菜乃	濱崎 匠人	江口 航世
上岡 零	大橋 一輝	池野 世奈	半田 海人	蘭牟田 勝己
木村 蒼良	永吉 伊織	高井 優希	中村 知那	伊瀬 彰
山本 楓矢	山中 奏	石井 里玖	内田 蓮滋	越智 燦士
中尾 海輝	山本 萌果	富山 博志	三鬼 和也	木村 風亮
兼森 大地	朝倉 悠心	近藤 寛斗	吉田 海音	米田 悠月
江里口 葉月	石河 啓	山本 翔太	京谷 誉	池田 賢心
佐上 茉香太	鈴木 禮飛	本郷 煌弦	辻本 隼希	下田 貴文
小川 晃	渡邊 颯海	齊藤 颯太	富山 喜平	橋本 煌之介
山下 涼介	松田 貫汰	北條 志帆	丹羽 優喜乃	吉岡 晴月
竹杉 拓海	井上 朝陽			
	高橋 悠生			
	井上 兼吾			
	蛭川 廉大			



エルニーニョ発生

エルニーニョが2018年秋～19年春以来4年ぶりに発生。干ばつや豪雨など異常気象が頻発し、食料価格が高騰している。エルニーニョは南米ペルー沖の海面水温が高くなることで、世界各地に干ばつや豪雨など様々な異常気象をもたらす。国連食糧農業機関 (FAO) は東南アジアやインド、オーストラリアなどで干ばつをもたらす懸念があるとしている。東南アジアではコメの生産にも影響を与える恐れがある。世界有数のコメ輸出国であるタイでは、降雨不足により生産量が落ち込む見込みだ。その他

としてサトウキビ・カカオ豆の不作懸念により価格が高騰している。影響は農産物市場にとどまらない。海水温の上昇によりペルーやチリなどでカタクチイワシの産卵が減少して漁獲量が減少しており、養殖魚の餌や魚粉の国際価格がエルニーニョ発生していた2015年以来の高値を付けた。国内の養殖漁業者の餌代高騰はコストの6～7割を占めており経営問題になっている。エルニーニョの発生は台風や暴風雨などの悪天候が発生する可能性があり、輸送が混乱し、商品の輸送が遅延し、価格が高騰。又は風力や太陽光などの再生可能エネルギーの生成量が減少する可能性がある。これにより、化石燃料の需要が高まり、エネルギー価格が上昇するなど世界経済に悪影響を及ぼします。足元の不作や価格高騰への対応でなく、長期的な気候変動の抑制策が求められる。

表紙写真 MV ONE INFINITY 正栄汽船株式会社 提供

本船の概要は、船種：24,000TEU型コンテナ船 今治造船丸亀 S-1901

全長：399.95m 全幅：61.4m 深さ：33.2m 最大喫水：16.5m 幅24列型でホールド内12段積、オンデッキ最大13段積

編集後記

日本国内有数の貿易拠点である名古屋港で、港内全コンテナ・ターミナルで運用しているコンテナの搬出入を一元的に管理する統一ターミナルシステム「NUTS」が、身代金要求型ウイルス「ランサムウェア」に感染してシステム障害を起こし、コンテナの搬出入作業が7月4日早朝から全面停止する異常事態になった。7月6日夕方には再開されたが、重要インフラが被害を受けた場合の影響は大きい。トヨタ自動車は6日、グループ企業の工場など4拠点を稼働停止するなどした。港湾運送などの物流機能は、システム化が進んでおり、国交省はサイバー攻撃への対策を強化しており、2006年には対策の指針を策定。3度の改正を重ね、港湾運送事業者等に対策を示している。指針では、不要なサービス機能の削除やパスワードを容易に推測できないようにするなど防止措置を要請している。内部への侵入を前提に情報のバックアップを取る必要性も指摘している。

国交省は今回の事態を深刻に受け止めており、全国の港湾業界団体や自治体に向けて、指針への対応状況を確認するよう求めるようだ。引き続き、港湾情報サイバーセキュリティ対応は検討していかなければならない。(飯島・記)

会報153号 夏季号

2023年8月発行

◇ 発行所：一般社団法人 全日本船舶職員協会 ◇ 編集兼発行人：加藤 信一
〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町三丁目7番12号 清話会ビル2階B室
TEL 03-3230-2651 FAX 03-3230-2653
E-mail: honbu@zensenkyo.com URL: <https://www.zensenkyo.com>

新発売

海事業界向けデータベースのネット公開サービス 「Maritime-iSAP」



パソコン、スマホ、タブレット
台数制限無くアクセス可能

機関誌等のバックナンバーの公開
製品データベースの検索サイト
図書館、資料室の蔵書検索
複数校の歴史史料の横断検索
会員限定のデータベースの公開
同窓会の写真アーカイブ など

- クラウド形式（ASP/SaaS）なので低価格、サーバ不要の楽々管理
- 貴データベースに合わせた検索機能や項目表示が可能
- 必要機器：ネットに繋がるパソコン1台（複数拠点からの登録も可）
- 高速全文検索エンジン（小規模から100万件の大規模まで快適検索）
- ログイン制限/IP制限で利用者制限も可能
- データ更新方法（テキストデータベース公開の場合）
 - （1）貴データベース（専用システム、Excel、Access等）からデータ出力
 - （2）テキスト変換ツール（当社提供）で(1)をワンクリックで取込形式に変換
 - （3）管理画面へアクセスし(2)のデータをアップロードで更新完了
- 多彩なオプションを用意

ナビゲーション/画像ビューワ/GoogleMAP 連携検索/SNS 連携/独自ドメイン/
カート(予約,複写依頼,購入申込)/お気に入り/サジェスト機能/利用統計 など

✉ isap@isap.co.jp

株式会社 iSAP

検索

詳しくはこちら



株式会社 **iSAP** (アイサップ)

東京都品川区大井 1-23-4 OValビル 4F

電話:03-5709-7525 FAX:03-5709-7527

ISO/IEC27001





Tokyo Bay Licensed Pilots' Association

東京湾水先区水先人会

会長 足立和也

〒231-0023 横浜市中区山下町1番2 パイロットビル
(代表・総務部) TEL(045) 650-3180 FAX (045) 663-4811
(オペレーション部) TEL(045) 681-4081 FAX (045) 681-4090
TEL(045) 681-4091

URL : <http://www.tokyobay-pilot.jp>

株式会社 コトラシステム

代表取締役 望月正信

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 1-12-13
日本橋船佐ビル3階

電話 (03) 3245-6975

FAX (03) 3245-6980

E-mail: cotrasystem@nifty.com



内海水先区水先人会

Licensed Inlandsea Pilots' Association

会長 末岡民行

〒650-0034

神戸市中央区京町72番地 新クレセントビル3階

電話(078)332-7191 FAX(078)391-7157

E-MAIL info@inlandsea-pilots.jp

関門水先区水先人会

会長 前原武人

〒801-0841 北九州市門司区西海岸1丁目2番13号
電話 (093) 332-2384(代)

船舶、船舶装備器具及び部品の販売、輸出。作業船の
賃貸船舶修理、検査工事の請負及びコンサルタント。

K2 シップマネジメント株式会社

〒220-0023 神奈川県横浜市西区平沼1-13-14
パークウヰア横浜・老番館306

電話 : 045-290-6082 FAX : 045-290-6916

E-mail : kani@ksh.biglobe.ne.jp



名阪船舶株式会社

代表取締役 高橋 宏之

〒552-0022 大阪市港区海岸通3丁目2番2号

TEL 06-6572-6221 FAX 06-6574-0635

<http://www.meihansenpaku.co.jp>



Marine Trans System Co., Ltd.

株式会社マリントランスシステム

代表取締役社長 小林 悠

〒104-0031 東京都中央区京橋一丁目1番5号

セントラルビル2階 (fabbit内)

電話 050-3187-3610(代) FAX 03-6629-6290



伊勢三河湾水先区水先人会

“安全と信頼を提供”

会長 高尾 幸徳

〒455-0032 名古屋市港区入船二丁目4番6号
名港ビルディング 17階

電話 : (052)304-8311 FAX : (052)304-8312

海事六法 2023年版

2023年1月末日現在の海事関係法令および条約196件を、海運／船舶／安全／船員／職員・審判／海上交通／海洋汚染／保安・その他／条約の9項目に分類して掲載。「海技試験」に必要な法令をすべて収録するとともに、口述試験場への持ち込みが認められている。また、海事代理士試験の規程法令科目にも対応した収録内容とし、実務にも役立つように配慮。

国土交通省海事局 監修

A5判 2192頁 定価 5,280円(税込)



海技士1E 解説でわかる問題集

出題頻度の高い問題(機関その一:154問、機関その二:98問、機関その三:86問、執務一般:41問)を収録。丸暗記に頼るのではなく、解答の内容が理解されやすいように、参考となる図や、専門用語の解説を多く加えた、問題解答集。

中島邦廣 著

A5判 384頁 定価 4,400円(税込)

〒112-0005 東京都文京区水道 2-5-4
TEL 03-3815-3291 FAX 03-3815-3953

海文堂出版

<http://www.kaibundo.jp/>
e-mail: hanbai@kaibundo.jp

清水水先区水先人会

会長 日比野 雅彦

副会長 鈴木 泰治

〒424-0922 静岡市清水区日の出町10番80号
清水マリナーミナル3F
電話 (054) 352-2191
FAX (054) 351-0527

■ センポスの宿・健康診断 ■



一般財団法人

船員保険会

会長 霜鳥 一彦



〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-5-6
SEMPOSビル 6・7階
電話 (03) 3407-6061 FAX (03) 3407-6597
URL <https://www.sempos.or.jp>